

2020年度

事業報告書

2020年4月01日から

2021年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

2020年度 事業報告

<所信>

このたびの新型コロナウイルスの感染により亡くなられた方々のご家族の皆さまに、衷心より哀悼の意を表します。また罹患された全ての皆さまに対し、1日も早いご回復をお祈り申し上げます。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、最大の目標であった2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が1年延期となり、本連盟の事業も大半が中止、延期、規模縮小となりました。このような国難ともいえる状況下、ご支援ご協力をいただいた加盟団体の皆さまをはじめ、協賛スポンサーや多くの関係団体の皆さまに対し、まずは心より感謝と御礼を申し上げます。

選手派遣および選手強化事業では、大幅な強化計画の変更を余儀なくされました。緊急事態宣言の発出に伴う各種の自粛要請などにより、十分な練習環境の確保にも苦慮するなど、大変厳しい状況での強化推進となりました。この困難な経験を「逆境を跳ね返す力」に変え、競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング(AS)、オープンウォータースイミング(OWS)の全部門において、2021年度以降の競技力向上に生かしてまいります。

競技大会開催事業では、本連盟「水泳競技会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」に準拠した運営により、10月から全国大会の開催を無観客で段階的に再開しましたが、高校生・中学生・ジュニアを対象とした大会が十分に開催できなかったことは、次代を担う選手強化の観点から大きな課題となりました。

競技条件整備事業では、昨年度サーバー移行した競技者登録システム「Web-SWMSYS」の安定稼働に加え、「水泳ニッポン中期計画・2017-2024」に基づくデータベースの再構築(泳力検定システム、記録サイトの構築)を計画どおり推進しました。

普及事業では、多様なスポーツ活動を率先して従事することのできる指導者を増やし、その質を高めるための取り組みを継続しましたが、「水泳の日」の中止をはじめ、大半の普及事業を開催することができませんでした。水泳離れに歯止めをかけ、水泳ファミリーの回復に取り組んでまいります。

組織運営のための共通事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対策を日々講じ、各種対応に注力しました。「スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>適合性審査」の対応に取り組むとともに、会議や研修会を通じたガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、インテグリティの向上に努めました。財務面では、諸経費の削減努力に加えてさらなる自主財源の確立に注力し、より積極的なマーケティング活動、公的機関からの助成金および免税募金などにより、コロナ禍による減収を最小限に食い止め、本年度事業への充当財源を確保することができました。

結びに、新型コロナウイルスの感染拡大により、現在もなお、日本の水泳界は予断を許さない状況に置かれています。しかし、このような時だからこそ、水泳関係者の一致団結が何よりも必要なことと強く確信しています。引き続き、一層のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2021年 6月 26日

会長 青木 剛

I 競技大会開催事業

1. 国内競技開催事業

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、多くの競技大会を中止または延期にせざるを得ない大変厳しい状況となった。何よりも多くの国民の期待と世界中の注目を集める中で開催されるはずであった東京オリンピックの1年延期は、水泳界にとっても衝撃的な出来事となった。国内競技大会も、年度初めにオリンピック選考会として行われるはずであった競泳の日本選手権水泳競技大会をはじめとする各競技会、さらには夏に実施予定であった日本高等学校選手権水泳競技大会（インターハイ）や全国中学校水泳競技大会（全国中学）、国民体育大会などの全国大会が中止、延期となった。各大会に向けて懸命に練習に取り組み、参加を夢見てきた選手たちの気持ちを考えると慚愧に堪えない。

本連盟では安全で安心な競技会の実施に向けて、「水泳競技会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を策定し、6月15日に公表した。ガイドラインでは、主催者・施設管理者が実施すべき事項と選手・監督・コーチが順守すべき事項に分けて示すとともに、チェックリストも作成した。そのうえで全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会を加盟団体ごとに開催し、記録を集約する通信大会として実施した。併せて、中止となったインターハイ、全国中学の代替措置として、高校生の部と中学生の部のランキングを示した。

実際に会場を使用しての全国大会の再開は、10月1日から東京辰巳国際水泳場で開催された第96回日本学生選手権水泳競技大会が皮切りとなった。その後は、下記一覧のとおり開催した。特に、4月にオリンピック選考会を兼ねて行われるはずであった第96回日本選手権水泳競技大会競泳競技を延期したうえで、新築された東京アクアティクスセンターで、12月3日から開催できたことは、コロナ禍で困難な日々を過ごしてきた選手・関係者にとって希望の光となった。

大会名	開催期日	会場	参加者数
第96回日本選手権水泳競技大会（競泳競技）	4月1日(水)～ 8日(水)	東京都 東京アクアティクスセンター	延 期
第96回日本選手権水泳競技大会(AS競技)	5月8日(金)～ 10日(日)	大阪府 東和薬品ラクトアドーム	延 期
ジャパンオープン2020（50m）	6月4日(木)～ 7日(日)	神奈川県 横浜国際プール	延 期
OWSオーシャンズカップ2020	6月14日(日)	千葉県 館山市北条海岸	中 止
日本ASチャレンジカップ2020	6月25日(木)～ 28日(日)	三重県 三重交通Gスポーツの杜	延 期
第67回全国国公立大学選手権水泳競技大会	8月14日(金)・ 15日(土)	神奈川県 横浜国際プール	中 止
第88回日本高等学校選手権水泳競技大会 （競泳競技）	8月17日(月)～ 20日(木)	茨城県 山新スイミングアリーナ	中 止
（飛込競技）	8月17日(月)～ 20日(木)	茨城県 山新スイミングアリーナ	中 止

(水球競技)	8月17日(月)～ 20日(木)	栃木県 県立温水プール館	中 止
第60回全国中学校水泳競技大会 (競泳競技)	8月17日(月)～ 19日(水)	愛知県 日本ガイシアリーナ	中 止
(飛込競技)	8月17日(月)～ 19日(水)	愛知県 日本ガイシアリーナ	中 止
第43回全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季水泳競技大会 (競泳競技)	8月22日(土)～ 26日(水)	大阪府 東和薬品ラグナドーム	中 止
(飛込競技)	8月22日(土)～ 25日(火)	大阪府 丸善インテック	中 止
(水球競技)	8月22日(土)～ 26日(水)	京都府 京都アクアリーナ	中 止
(AS競技)	8月22日(土)～ 25日(火)	広島県 ひろしんびッグウェーブ	中 止
第65回日本大学・中央大学対抗 水泳競技大会	8月27日(木)	東京都 東京辰巳国際水泳場	中 止
第92回早慶対抗水上競技大会	8月28日(金)	東京都 東京辰巳国際水泳場	参加団体 2 男子67/女子18
日本スポーツマスターズ2020	9月5日(土)・ 6日(日)	愛媛県 アガパレットまつやま	中 止
第37回日本マスターズ水泳選手権大会	9月18日(金)～ 22日(火)	石川県 金沢プール	中 止
第75回国民体育大会水泳競技大会 (AS競技)	9月12日(土)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	延 期
(水球競技)	9月13日(日)～ 16日(水)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	延 期
(OWS競技)	9月14日(月)	鹿児島県 屋久島一湊海水浴場	延 期
(飛込競技)	9月14日(月)～ 16日(水)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	延 期
(競泳競技)	9月18日(金)～ 20日(日)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	延 期
第96回日本学生選手権水泳競技大会 (水球競技)	9月17日(木)～ 19日(土)	神奈川県 横浜国際プール	参加団体 21 男子289/女子91
(AS競技) 第10回マーメイドカップ	9月19日(土)	神奈川県 横浜国際プール	参加団体 13 男子1/女子28
(競泳競技)	10月2日(金)～ 4日(日)	東京都 東京辰巳国際水泳場	参加団体 54 男子445/女子329
(飛込競技)	10月3日(土)・ 4日(日)	大阪府 丸善インテック	参加団体 13 男子16 女子20

第96回日本選手権水泳競技大会 (飛込競技)	9月25日(金)～ 27日(日)	新潟県 ダイエープロフェッショナルプール	参加団体 48 男子35/女子39
第96回日本選手権水泳競技大会 (OWS競技)	10月11日(日)	千葉県 館山市北条海岸	中 止
第62回日本選手権水泳競技大会(25m)	10月17日(土)・ 18日(日)	東京都 東京辰巳国際水泳場	参加団体 169 男子183/女子167
第96回日本選手権水泳競技大会 (水球競技)	10月29日(木)・ 31日(土)	東京都 東京辰巳国際水泳場	参加団体 16 男子108/女子113
第3回日本社会人選手権水泳競技大会	11月7日(土)・ 8日(日)	和歌山県 秋葉山公園県民水泳場	参加団体 155 男子292/女子64
第96回日本選手権水泳競技大会(AS競技)	11月12日(木)～ 15日(日)	山口県 きらら博記念公園水泳プール	参加団体 15 男子3/女子141
日本ASチャレンジカップ2020	11月12日(木)～ 15日(日)	山口県 きらら博記念公園水泳プール	参加団体 24 男子7/女子144
第96回日本選手権水泳競技大会(競泳競技)	12月3日(木)～ 6日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 186 男子233/女子175
第13回全日本ユース(U15)水球選手権大会 (桃太郎カップ)	12月24日(木)～ 27日(日)	岡山県 倉敷市屋内水泳センター 倉敷市児島地区公園水泳場	中 止
第24回13-15歳ソロ・デュエット大会	1月23日(土)	神奈川県 横浜国際プール	中 止
ASナショナルトライアル2021	1月24日(日)	神奈川県 横浜国際プール	中 止
ジャパンオープン2020(50m)	2月4日(木)～ 7日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 238 男子292/女子245
第7回全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会(かしわざき潮風カップ)	3月19日(水)～ 22日(土)	新潟県 県立柏崎アクアパーク	参加団体 24 男子154/女子137
飛込国際大会派遣選手選考会	3月20日(土)・ 21日(日)	石川県 金沢プール	参加団体 17 男子13/女子16
第43回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会(飛込競技)	3月25日(木)・ 26日(金)	東京都 東京辰巳国際水泳場	参加団体 17 男子17/女子26
(水球競技)	3月26日(金)～ 30日(火)	千葉県 千葉県国際総合水泳場	参加団体 53 男子475/女子172
(競泳競技)	3月27日(土)～ 30日(火)	東京都 東京辰巳国際水泳場	中 止

2. 国際競技開催事業

自国開催となる東京オリンピックが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により1年延期となった。それに伴い、4月に東京アクアティクスセンターで開催予定であった飛込の世界大会

カップ、AS のオリンピック最終予選会、および 5 月に福岡シーサイドももちで開催予定であった OWS のオリンピック最終予選会も延期となった。併せて、2021 年度に予定されていた世界選手権大会福岡大会の開催時期も 2022 年度に変更となった。

FINA Diving World Cup2020	4月21日(火)～ 26日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	延 期
FINA ARTISTIC SWIMMING OLYMPIC GAMES QUALIFICATION TOURNAMENT 2020	4月30日(木)～ 5月3日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	延 期
FINA Olympic Marathon Swim Qualifier 2020	5月30日(土)・ 31日(日)	福岡県 ももち浜	延 期
FINA ARTISTIC SWIMMING OLYMPIC GAMES QUALIFICATION TOURNAMENT 2021	3月4日(木)～ 7日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	再 延 期

3. 競技委員会事業

(1) マーケティング事業

新型コロナウイルスの感染拡大により多くの競技会が中止、延期となったが、マーケティング対象大会の大半は適正な対策を講じた上で開催することができた。無観客開催になるなどしたが、協賛金額の大幅な減額などは無く、継続的なご支援をいただいた。オフィシャルパートナー、オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーをはじめ、協賛各社に心より感謝したい。

(2) 競技事業

感染拡大防止のための全国大会開催中止措置については、各大会の開催地、加盟団体、(公財)全国高等学校体育連盟・(公財)日本中学校体育連盟、(公財)日本スポーツ協会(JSPO)などと連絡調整を図りながら決定した。大会開催に向けて準備に当たってきた関係各位の心中を察するに余りあるが、これまでの努力に敬意を表したい。本連盟競技事業の情報伝達のため例年実施している全国競技委員長会議も中止となった。また加盟団体からの実技研修を兼ねた競技役員派遣や競技会指導も実施せず、競技委員会からの役員派遣は和歌山県で開催された第3回日本社会人選手権水泳競技大会のみとなった。

競泳の全国大会の再開に当たっては、密を避けるために参加標準記録を変更し、参加者数を削減した上で、徹底した感染予防策をとっての開催とした。10月の第96回日本学生選手権水泳競技大会を皮切りに、第62回日本選手権水泳競技大会(25m)を東京辰巳国際水泳場で開催し、その後、延期となっていた第96回日本選手権水泳競技大会競泳競技を12月に、ジャパンオープン2020を2月に、それぞれ東京アクアティクスセンターで開催した。全ての大会を無観客にした上で、全参加者に健康チェックシートの提出義務付け、マスク・フェイスシールドの着用、招集所や控え場所などでの選手間の距離確保、インタビュー方式の変更、消毒作業の実施やアルコール消毒液の設置等々を徹底して行った。その結果、全ての大会において感染者を出すことなく実施できたことに安堵している。

(3) 学生競技会事業

全国大会である第67回全国国公立大学選手権水泳競技大会は、新型コロナウイルスの影響により他の全国大会と同様に中止となり、大会を実施することができなかった。しかし、10月開催の第96回日本学生選手権水泳競技大会は参加人数を削減し、大会期間を4日間として、できる限りのコロナ対策を講じて本年度初の競泳の全国大会開催となった。

全国各支部との連携を緊密に図るためにリモート会議を導入し、今まで以上に会議回数を増やした。学生水泳精神の養成・向上を目的とした全国代表者会議もリモートにて開催した。ドーピング違反の再発防止のための「学生向けアンチ・ドーピング講習会」も各支部にてリモートで実施した。また、東京オリンピックにおける学生補助役員養成の一環として、学生委員会から競技役員講習会にリモートにて参加した。今後も東京オリンピックだけでなく、世界選手権大会（2022年福岡）へ向けて学生の役員養成を継続する。

II 競技条件整備事業

1. 競技者登録事業

水泳競技大会への参加者および記録を管理するため、競技者（選手・団体）の登録管理の安定化を図る事業を推進した。Web-SWMSYSにおける特定のブラウザ（Internet Explorer）でしか使用できない課題については、他のブラウザでも使用できるよう対応を完了した。同システムについては、制作中の「記録報告サイト」との連携などの機能強化を計画的に推進し、全面改良版を2024年度に公開予定である。

2. 競技規則制定事業

2020年度は競技規則の改定は行われなかったが、国際水泳連盟（FINA）の競技規則との整合性を図るとともに、最新版の全競技規則をHPに掲載して情報発信を継続した。全国で統一した理解・共通認識のもとで、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進した。

3. 競技役員養成・登録事業

例年実施している公認競技役員・審判員養成事業も、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、ブロック研修会ならびに加盟団体主催の研修会の大半が中止となった。また、全国の競技会をより充実させるために継続して実施している本連盟の主催大会における加盟団体競技委員長の実技研修も、感染予防の観点から見送りとした。今後、競技役員資格取得者数を維持して本連盟の方針や競技規則を全国各地に浸透させるためには、計画的な養成・登録が必須である。コロナ対策を講じた各種研修会の再開が望まれる。

4. 競技記録公認・管理事業

（競技結果公認報告）

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を行った。「記録報告サイト」を新たに構築し、新システムを導入することで作業効率の向上を図った。各加盟団体の協力により、3日以内の結果報告は定着しつつある。

（超速システム）

全加盟団体における運用の実施率の向上に取り組んだ。

コロナ禍で多くの大会が無観客で開催されたため、期間限定で無償公開を行った。

（記録管理）

「記録報告サイト」の構築により記録チェックをシステム化し、記録のチェックから公開までの自動化を図った。これにより、公認された記録が数分後には記録サイトで公開できるようになった。

5. 施設用具公認事業

(1) 競技場であるプールおよび競技に係る施設用具に関して、公認規則に基づき検査を行い、公認する事業を行った。

公認プール	50m	25m	飛込	水球	標準
新規	3件	7件	1件	0件	0件
再公認	43件	52件	10件	0件	3件

(2) 「水泳および水泳競技に使用される用器具類やシステム等の公認・推薦規程」に基づく推薦商品認定を行った。

- ・公認企業：5企業／3商品
- ・推薦企業：29企業／27商品
- ・推薦商品：1商品（空間除菌消臭システム）

6. アンチ・ドーピング事業

<主催・主管大会でのドーピング検査事業>

(公財) 日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) と連携し、主催大会においてドーピング検査 (競技会検査) を実施し、選手の権利を守る立場である NF 代表役員をドーピング検査会場に派遣した。

競技会名 (検査日)		NF 代表役員	スポーツ ファーマシスト
競 泳 日本選手権 (4/2~7)	延期	-	-
FINA 飛込ワールドカップ (4/21~26)	延期	-	-
FINA AS 五輪予選 (4/30~5/3)	延期	-	-
A S 日本選手権 (5/9)	延期	-	-
FINA マラソンスイム五輪予選 (5/30,31)	延期	-	-
鹿児島国体 競泳 (9/18~20)	延期	-	-
飛 込 日本選手権 (9/26)		村田、大谷	派遣無し
競 泳 インカレ (10/2~4)		塚越、奥田、清水、宇内、内田	派遣無し
OWS 日本選手権 (10/11)	中止	-	-
競 泳 日本選手権(25m) (10/17,18)		上原、黒木	派遣無し
水 球 日本選手権 (10/31)		塚越、篠木	派遣無し
A S 日本選手権 (11/14)		村田、岡井	派遣無し
競 泳 日本選手権 (12/3~6)		上原、奥田、元島、宇内、黒木	派遣無し

対象者：ドーピング検査は上記競技会（多くは日本選手権レベル）にて、JADA の指示による指定や抽選で対象選手を決定し検査が行われた。（通常、ワールドカップ[®]、ワールドシリーズなどの国際競技会については、FINA の指示により対象選手を決定している。）

<その他の事業>

(1) HP 掲載資料作成、薬の治療目的使用に係る除外措置 (TUE) 書類審査

- ・本連盟 HP および競技会掲載用のアンチ・ドーピング資料の作成をした。
全国大会出場レベル選手から国際大会出場レベル選手向けの内容とした。
- ・(公財) 日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) から通達のあった連絡事項を本連盟 HP にも掲載し、注意喚起を行った。
- ・選手より届いた TUE 申請の書類チェック、および FINA、JADA への提出・確認を行った。

(2) 強化合宿・研修会などへの講師派遣

- ・連盟強化合宿中に、オンラインにて、研修会・講習会を行った。
2020年度 FISU ワールドユニバーシティゲームズ候補選手合宿 オンライン講習 12月9日
塚越ドクター担当

(3) 競技会相談担当スポーツファーマシスト派遣

- ・出場選手、コーチ向けに薬の使用についての相談ブースの設置、スポーツファーマシスト派遣をドーピング検査実施競技会において実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、本年度は設置、派遣は行わなかった。

(4) JADA 会議への国内競技団体 (NF) 代表役員としての参加

- ・年数回開催される JADA の連絡会議およびシンポジウム (オンライン開催) などに参加し、最新情報を収集した。

(5) 競技会におけるアンチ・ドーピング啓発活動 (アウトリーチプログラムの実施)

- ・全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会が通信大会での実施となったため、本連盟主体のアウトリーチプログラムは中止となった。

(6) 学術活動

- ・第8回水泳競技メディカルサポート研究会にて、アンチ・ドーピング活動にも関わる演題発表をし、ドクター、トレーナーなどに対する啓発活動を行った。

(7) JSPO 公認水泳コーチ研修会にて

- ・アンチ・ドーピング活動に関する講義を行い、コーチに対する啓発活動を行っているが、コーチ研修会開催中止のため、コーチ向けの講義・啓発活動は行わなかった。

(8) スポーツファーマシストによる医薬品相談・ホットライン体制

- ・本連盟独自に、本連盟 HP 上で医薬品使用可否相談に関する24時間対応を実施した。

(9) 学連競技者対象のアンチ・ドーピング講習会の開催

- ・水泳競技に限らずサプリメントによる違反事例が多くなっていることを受け、サプリメントに依存する傾向の強い学連競技者（大学生）を対象に、学生委員会主導のもと JADA の教材（オンライン講習）を用いてアンチ・ドーピング講習会を開催した。

Ⅲ 選手派遣事業

オリンピックイヤーとなるはずであった2020年度は、これまでの強化の勢いをさらに加速させ、世界で戦える底力をつけることを最大目標に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染拡大による東京オリンピックの延期、さらには数多くの大会が中止になるなど、大きな打撃を受けた1年であった。そのような未曾有の状況下においても特別強化本部会議を毎月1回開催し、主要国際大会で最高の結果を出すための強化計画や準備状況などを、5部門（競泳・飛込・水球・AS・OWS）で共有、把握した。この会議はオリンピック（世界選手権大会・アジア大会）に向けた競技力向上を目的に、強化事業および派遣事業がより効果的に実施されるよう、各部門への支援・連携を促進することを目的に実施している。1年延期となった東京オリンピックにおける成果は、その先の日本水泳界の動向を大きく左右するため、引き続き水泳関係者の英知を結集して総力戦で臨む。

1. JOC 事業

(1) 第32回オリンピック競技大会

① 期間・場所 7月25日～8月9日 日本・東京 延期

2. 本連盟派遣事業（主要大会）

(1) FINA飛込ワールドカップ2020兼東京2020オリンピック最終選考会

期間・場所 4月21日～26日 東京アクアティクスセンター 延期

(2) FINAマラソンスイミング東京オリンピック最終選考会

期間・場所 5月30日・31日 シーサイドももち海浜公園 延期

IV 選手強化事業

1. 競泳強化事業

2020年は東京オリンピックおよびアジア選手権大会の2021年への延期が発表され、ジュニアパンパシフィック選手権大会は中止となった。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、国内においても4月からの2ヶ月間は、どこのプールも利用できない状況を余儀なくされた。6月以降の新しい生活様式での練習再開に向け、緊急事態宣言中にガイドラインを作成するとともに、選手たちの心身の状況を把握し、強化の火を消さないよう努めた。8月以降は限定的ではあったがインターナショナル合宿を実施した。国内・国外ともに競技会実施が難しい状況であったため、2019年度のインターナショナル選手の強化指定を継続するとともに、ジュニア選手たちのモチベーション低下を防ぐため、ナショナル標準記録の指定大会を拡大するとともに、認定証の送付や自宅でできるトレーニング動画の配信などを通じ、限られた環境下ではあったが強化を継続することができた。

冬場に予定されていたジュニアのナショナル合宿やシンガポール遠征などは、引き続きのコロナ禍のため実施困難と判断し中止とした。暗いニュースが続いた1年ではあったが、全国大会の再開や1月の北島康介杯における松元克央選手の日本記録、インターナショナル・ナショナル標準記録突破選手が例年並みにいたことは明るい材料となった。2021年はいよいよ東京オリンピックを迎える。この困難な状況下でもトレーニングをしてきたことを糧に好成績を期待したい。また、コロナ対策を踏まえた上での新たな強化方法を模索し、ジュニア強化や競技会強化を推進していけるよう、競泳委員会一丸となって知恵を出していきたい。

(1) 国際競技会

① ヨーロッパグランプリ	6月	ヨーロッパ	中止
② オリンピック	7月	日本・東京	延期
③ アジア選手権大会	11月	フィリピン・クアーク	延期
④ 世界選手権大会 (25m)	12月	UAE・アブダビ	延期
⑤ ジュニアパンパシフィック選手権大会	8月	ハワイ・ホノルル	延期
⑥ ジュニア選抜遠征	1月	オーストラリア	中止
⑦ ジュニアブロック選抜遠征	3月	シンガポール	中止

2. 飛込強化事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、東京オリンピックおよびFINAワールドカップなどの主要国際大会が延期となった。主に公共施設を強化拠点としている飛込は、練習環境の確保に苦慮しながらも、基礎体力の向上や基礎技術の定着を目標に練習内容の工夫に時間をかけて取り組んだ。

9月以降に再開された国内競技会では、課題克服に向けたパフォーマンスの向上が見られた。特に男子高飛込、女子飛板飛込などを中心にハイレベルな若手選手が台頭し、国際レベルの演技構成が習得できつつあるなどの成果が確認された。またシンクロペアも確定し、時間をかけて練習に取り組むことができたことから、パフォーマンスの向上につながった。

1月よりオリンピック強化候補選手合宿を本格化し、金沢プール・富士水泳場・東京アクアティクスセンターにおいて、個人種目・シンクロ種目それぞれに安定度・再現性の向上に努めた。コロナ禍による練習環境の変化に伴い分散合宿を行ったほか、本年度は競技会開催が少なかったため競技会に

向けたシミュレーション練習を多く取り入れ競技会強化につなげた。またリモート会議の普及により、コーチ、トレーナー、スタッフを一同に介して数多くの意見交換を実施することができ、情報共有や共通理念が浸透し、さらに強固な協力体制が確立された。

ジュニア強化では、12月にジュニア合宿（トップ・セカンド強化対象選手のみ）をナショナル選手とともに実施した。また、その成果を検証するために中田周三杯に出場した。3月には新型コロナウイルス感染対策を十分に施した上で全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会飛込競技（東京辰巳国際水泳場）を開催し、ジュニア層の競技会強化を図った。

(1) 国際競技会

① FINA World Cup	4月21日～26日	日本・東京	延期
② FINA-GP（シンガポール）	5月29日～31日	シンガポール・シンガポール	派遣中止
③ FINA-GP（マレーシア）	6月5日～7日	マレーシア・クアラルンプール	派遣中止
④ Diving World Series	2大会出場予定	中国・珠海 西安	中止
⑤ オリンピック	7月24日～8月9日	日本・東京	延期
⑥ 世界ジュニア選手権大会	11月29日～12月6日	ウクライナ・キエフ	延期
⑦ アジア選手権大会	11月7日～17日	フィリピン・クラーク	延期

3. 水球強化事業

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、東京オリンピックを含めた全ての国際競技大会および海外遠征強化事業が延期、中止となった。そのため2021年に延期となった東京オリンピックに向けた男女日本代表の強化事業計画を、国内強化に大きく修正することとした。しかし、上期は緊急事態宣言の発出より十分な強化を行うには至らなかった。下期に入り、JISSおよび加盟団体のご協力を得て徐々に国内強化合宿を再開した。東京オリンピックが1年延期になったことで、この1年間で、若手選手がベテラン勢を脅かす存在として成長できたことは大きな収穫であった。代表チームの編成については、従前より戦略的に世代交代を進めてきたため幅広い年齢層の対象選手が整いつつあったが、若手の一層の成長により、さらに厳しい競争環境を作ることができた。

代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業については、対象選手を見直して継続することができた。本年度は、日本代表選手への欧州強豪クラブからのオファーも多数あり驚かされた。

ジュニアの強化育成については、代表同様に育成国際大会の延期により、全ての派遣事業が中止となった。また国内での強化合宿も教育機関のルールなどにより中止となった。そのためジュニア世代を競技会強化で育成することとし、感染対策を十分に整え、下期に国内主要競技会を主管加盟団体の協力を得て開催した。

(1) 国際競技会

① 男子ワールドリーグ インターコンチネンタルカップ	4月28日～5月3日	アメリカ・インディアナポリス	延期
② 女子ワールドリーグ インターコンチネンタルカップ	4月28日～5月3日	アメリカ・インディアナポリス	延期
③ 男子ワールドリーグ スーパーファイナル	6月23日～28日	ジョージア・トリビシ	延期
④ 女子ワールドリーグ スーパーファイナル	6月9日～14日	未定のまま延期	延期
⑤ オリンピック（男女）	7月25日～8月9日	日本・東京	延期
⑥ アジア選手権大会（男女）	11月7日～17日	フィリピン・クラーク	延期
⑦ FINA U16 ワールドカップ（男女）	7月5日～12日	ギリシャ	延期

⑧	男子世界ユース選手権大会	8月22日～30日	トルコ	延期
⑨	女子世界ユース選手権大会	9月5日～13日	イスラエル・ネゴ	延期
⑩	男女アジアジュニア選手権大会	未定のまま延期	未定のまま延期	延期

4. AS強化事業

2020年度はCOVID-19パンデミックの影響により、すべての国際大会が中止もしくは延期となり、国際大会派遣事業を実施できなかった。東京オリンピック1年延期決定を受けて、強化計画を大幅に見直すことになったが、代表強化合宿についても政府の緊急事態宣言により、4月～6月中旬はハイパフォーマンスセンター（HPSC）が使用不可となり所属強化に切り替えた。6月下旬よりNF種別ごとの練習再開ガイドラインおよびHPSC感染対策ガイドラインに沿って、JISSでの強化合宿を段階的に再開した。活動制限により一時的に体力が低下したが、夏以降はほぼ従来通りのトレーニング内容にまで戻せ、下期は個々の課題克服とスキルアップにじっくりと取り組むことができ、個人力とチーム力の向上につなげることができた。また、5月末にFINAよりApアルタネイトアスリート（村外待機選手）の追加が認められたことから、東京オリンピック日本代表派遣選手選考方法の見直しを行い、新たに2名を加えた代表候補10名で8月下旬より再スタートを切った。その後、12月中旬に代表候補を9名に絞り、JISSでの強化を継続した。

2024・2028オリンピックに向けての次世代強化として、B代表、ジュニア代表、ユース代表派遣についても国際大会の中止・延期により派遣事業を取りやめた。また、HPSCの使用制限により、秋以降に計画していたユース強化事業を全面的に中止せざるを得なくなり、代わりにリモートでの栄養指導講座を実施した。その一方で、FINAおよび各国が考案・開催したバーチャル大会に複数の選手が参加し好成績を収め、コロナ禍でのモチベーション維持につながった。また、感染予防策を徹底し、2020年世界ユース選手権大会に向けてのフィギュア強化合宿をJISS外にて1泊2日で実施し、ジャンパー育成プロジェクトはレンタルスペースにて合宿日程を短縮しトレーニング内容を工夫するなどして育成強化を継続した。さらに12月には、2021年に延期になった第17回世界ジュニア選手権大会代表派遣選手選考会と男子ジュニア育成合宿を行った。コーチキャンプや国際審判員研修会などのコーチ・審判強化研修はリモートで実施し、コーチと審判のためのeラーニング研修サイトをそれぞれ立ち上げた。強化計画の変更→再変更に追われた1年間で、トレーニング成果を発揮する機会や強化合宿を計画通りに進められなかった一方で、選手・コーチらの前向きな姿勢と関係者の力強い支援により、種々形を変えつつもできることを模索し、強化育成をつなぐことができた。

(1) 国際競技会

①	FINAASWS ブダペスト大会	4月	ハンガリー・ブダペスト	中止
②	FINAASWS カザン大会	4月	ロシア・カザン	中止
③	FINAASWS マドリッド大会	5月	スペイン・マドリッド	中止
④	FINAASWS ロチェスター大会	6月	アメリカ・ロチェスター	中止
⑤	オリンピック	8月	日本・東京	延期
⑥	世界ジュニア選手権大会	8月	カナダ・ケベックシティ	延期
⑦	地中海カップ	7月	ギリシャ・アレクサンドロポリス	中止
⑧	アジア選手権大会	11月	フィリピン・クラーク	延期
⑨	ロシアン・マトリョーシュカ大会	12月	ロシア・チェーホフ	中止

5. OWS 強化事業

新型コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言発出により、2020 年度当初からナショナル合宿、所属練習ともに実施困難な状況となった。選手派遣を計画していた国際大会も中止や延期が相次ぎ、とりわけ東京オリンピックおよび5月のオリンピック・マラソンスイミング最終選考会（福岡市）の翌年延期決定は代表候補選手にとって厳しい現実であった。非常事態宣言期間中は所属練習もままならず、選手の不安解消、意欲向上が急務と考えられた。練習合宿が開催できない分、OWS 強化指定選手の目標再確認とモチベーションの維持・向上を図るため、リモートによる研修を複数回にわたって実施した。日頃、練習やコンディショニング、競技会参加に追われる日常を過ごしてきた選手たちが、あらためて水泳選手としての活動意義、OWS 競技にチャレンジし続ける意味を各自振り返り、自己内観する良い機会となった。「大会出場」という目標と実践経験を積む機会は失われたが、足元を見つめ直し、来年に向けて新たな視点での決意と目標設定ができたことは、困難な状況下での大きな収穫でもあった。

7 月以降は、国内に限っての東京オリンピック代表候補選手サポート合宿、ナショナルチーム合宿も実施可能となり、日本学生選手権水泳競技大会を皮切りに競技会も開催されはじめ、選手も全体的に活気を帯びてきた。開催予定であった日本選手権水泳競技大会 OWS 競技は台風直撃による中止となり、OWS 選手にとって貴重な 10km レースの感覚を取り戻す機会を持つことができなかった。また、下期事業計画にあった1月 OWS 全豪選手権、3月 FINA マラソンスイミング・ワールドシリーズ（カタール・ドーハ）もコロナ禍での渡航制限などにより派遣を中止とした。

残念ながら当初計画の国際大会派遣は全て中止し、国内強化合宿に集中せざるを得ない年度であった。2021 年度は東京オリンピックがメインとなるが、併せて3年後に迫る 2024 年、その次の 2028 年を見据え、次世代選手の育成と強化も大きな課題となる。競泳長距離選手との合同強化も含めて、新たな発想での強化事業を模索・実践していきたい。

(1) 国際競技会

① 全米選手権大会	4 月	アメリカ・フロリダ	中止
② オリンピック最終選考会	5 月	日本・福岡	延期
③ ワールドシリーズ	6 月	ポルトガル・セトゥバル	中止
④ オリンピック	8 月	日本・東京	延期
⑤ 世界ジュニア選手権大会	8 月	セーシェル	延期
⑥ 全豪選手権大会	1 月	オーストラリア	中止
⑦ ワールドシリーズ	2 月	カタール・ドーハ	中止

6. 科学事業

コロナ禍で開催された競泳の国内主要大会において、競泳委員会および JSC ハイパフォーマンスサポート事業と連携し、レース分析ならびに映像提供の科学サポートを実施した。分析結果をネット上で公開して競泳の競技力向上に向けたデータの普及・啓発を推進した。競泳委員会と連携した合宿サポートは中止となったが、コロナ禍による自粛期間および自粛明けの各期における有効なトレーニング方法について、「月刊水泳」および HP の委員会ページを通じて公表した（6～8 月）。飛込、水球、AS、OWS の各委員会と連携し、合宿や競技会における撮影を計画したが中止または縮小となった（飛込：サポート中止、水球：国内のみの競技会などビデオ撮影およびゲーム分析、牽引パワー測定、AS：オンラインによる栄養サポート、OWS：サポート中止）。

会議活動として、2020年日本水泳水中運動学会年次大会（11月14・15日、本連盟後援、オンライン開催・日本福祉大学担当）に運営協力した。また、広報活動として、「自粛期間をどう過ごしてベストを出したのか？」（対談記事）、インカレのレース分析結果、水泳水中運動学会のシンポジウムの紹介など、7回シリーズ（12～6月号）で「月刊水泳」に記事を掲載した。専門委員会は、年5回開催し、コロナ禍での科学サポートの確認や新規に展開する各競技サポートに関する審議を行った。

7. 医事事業

未曾有のCOVID-19新型コロナウイルス感染症パンデミックの中、多くの競技会や海外遠征が中止され、医事委員会の多くの活動は以下に示す大会運営時および合宿実施時の感染症対策となった。

- (1) 練習再開にあたってのガイドライン：4月より発令された緊急事態宣言によって競技活動が停止していたが、活動を再開するにあたってのガイドラインをHPSCの基準に倣って策定し周知した。
- (2) 競技会開催時のガイドライン：競技会を実施する際の参加者を対象としたガイドラインを策定し周知した。本年度の競技会内での感染発生はなかった。
- (3) 合宿実施時のガイドライン：HPSCのガイドラインに倣って日本代表選手の合宿実施時のガイドラインを策定し周知した。3月の水球合宿において感染発生したため今後の対策を強化する必要がある。
- (4) 競技会救護活動：国内主要大会へ救護医師の派遣および医薬品の配備を行った。また主要大会においてはFINAのコロナ感染ガイドラインに示されるCOVID-19 officerを配置し感染防止対策、有症状者への対応を行った。
- (5) 国際大会における感染拡大防止対策：FINA主催で3月に開催が予定されたアーティスティックスイミング五輪最終予選大会（ASOQT）、2021年度に開催予定された飛び込みワールドカップ（DWC）、マラソンスイミング五輪最終予選大会（MSOQT）におけるコロナ感染予防対策を行った。FINAガイドラインに沿って、コロナ検査体制および検査陽性者対応を行うエージェント医療機関を、東京都で開催されるASOQTとDWCにおいては高島平中央総合病院に定め、福岡で開催されるMSOQTの検査体制を福岡市医師会臨床検査センター、エージェント病院を福岡大学付属病院に依頼して開催準備を進めた。また各大会におけるCOVID-19 officerを配置し準備を進めた。
- (6) 会議活動：2020年11月21日に水泳競技サポート研修会を6月に延期した水と健康医学研究会と兼ねて、水中運動における新型コロナウイルス感染症対策として、日本水泳ドクター会議および日本水泳トレーナー会議共催での研修会を行った。
- (7) 教育啓発活動：各種研修会への講師派遣、JSPO公認スポーツドクター、AT養成講習会への受講者推薦を行った。
- (8) アンチ・ドーピング活動：アンチ・ドーピング委員会と協力して、アンチ・ドーピング活動を実施した。また、主要競技大会のドーピング検査会場にNF代表役員を配置した。
- (9) 各地域メディカルサポート体制の構築：各地域でのメディカルサポート体制を充実させることを目的に、各地域で研修会を行った。各都道府県加盟団体に医事担当役員の設置を依頼した。

《合宿関係》

I 国内合宿

(1) 競 泳

インターナショナル強化合宿			スタッフ(名)	選手(名)	計(名)
第1回	8/10～23	ナショナルトレーニングセンター／国立スポーツ科学センター	25	27	52
第2回	8/31～9/13	ナショナルトレーニングセンター／国立スポーツ科学センター	21	21	42
第3回	10/26～11/7	ナショナルトレーニングセンター／国立スポーツ科学センター	17	18	35
第4回	10/25～11/18	ナショナルトレーニングセンター／GMO アスリーツパーク湯の丸	5	3	8
第5回	12/7～20	ナショナルトレーニングセンター／国立スポーツ科学センター	21	20	41
第6回	12/6～27	ナショナルトレーニングセンター／GMO アスリーツパーク湯の丸	12	16	28
第7回	1/12～27	GMO アスリーツパーク湯の丸 ※緊急事態宣言再発令のため中止	0	0	0
第8回	2/8～21	ナショナルトレーニングセンター／国立スポーツ科学センター	24	28	52

(2) 飛 込

① ジュニア強化合宿

12/7～13	金沢プール	3	5	8
---------	-------	---	---	---

② ワールドカップ強化合宿

第1回	6/27～28	静岡県富士水泳場	2	2	4
第2回	7/4～5	茨城県山新スイミングアリーナ	2	2	4
第3回	7/11～12	茨城県山新スイミングアリーナ	2	2	4
第4回	7/14～17	静岡県富士水泳場	2	2	4
第5回	7/1～30	鹿児島県鴨池公園飛込プール	1	1	2

③ ナショナル強化合宿

第1回	11/16～21	金沢プール	11	12	23
第2回	12/7～13	金沢プール	12	10	22
第3回	1/15～20	静岡県富士水泳場	5	3	8
第4回	1/26～31	金沢プール	5	4	9
第5回	2/8～14	東京アクアティクスセンター	15	13	28
第6回	3/8～12	金沢プール	6	8	14
第7回	3/8～12	静岡県富士水泳場	3	2	5
第8回	3/15～18	金沢プール	11	11	22

(3) 水 球

① 男子ユニバーシティゲームス合宿

1/25～28	千葉県国際総合水泳場	7	21	28
---------	------------	---	----	----

② 男子国内強化合宿

第1回	7/14～22	富山県総合体育センター	10	16	26
第2回	8/3～11	千葉県国際総合水泳場	11	18	29
第3回	8/25～9/5	富山県総合体育センター	8	22	30
第4回	10/1～10	国立スポーツ科学センター	9	19	28
第5回	11/16～22	千葉県国際総合水泳場	11	23	34
第6回	12/3～14	富山県総合体育センター	11	21	32
第7回	12/20～24	国立スポーツ科学センター	10	18	28
第8回	1/18～22	千葉県国際総合水泳場	8	18	26
第9回	2/2～10	千葉県国際総合水泳場	12	21	33
第10回	2/22～3/2	国立スポーツ科学センター	7	19	26

第11回	3/16～24	和歌山県秋葉山公園県民水泳場	8	22	30
③ 女子国内強化合宿					
第1回	7/21～29	山口きらら博記念公園水泳プール	6	6	12
第2回	8/4～12	富山県総合体育センター	5	16	21
第3回	11/4～13	国立スポーツ科学センター	5	21	26
第4回	11/21～30	国立スポーツ科学センター	6	21	27
第5回	12/7～13	国立スポーツ科学センター	5	21	26
第6回	12/23～30	倉敷市屋内水泳センター	6	22	28
第7回	1/12～15	国立スポーツ科学センター	3	23	26
第8回	1/29～2/5	国立スポーツ科学センター	4	22	26
第9回	2/14～22	山口きらら博記念公園水泳プール	7	26	33
第10回	3/4～15	国立スポーツ科学センター	4	16	20
第11回	3/21～31	柏崎アクアパーク	7	17	24
(4) アーティスティックスイミング					
① ユースエリート・フィギュア強化合宿					
	10/3～4	京都アクアリーナ	10	8	18
② 世界ジュニア代表候補選手合宿					
	12/16～20	国立スポーツ科学センター	23	12	35
③ 男子ジュニア育成強化合宿					
	12/25～27	国立スポーツ科学センター	9	4	13
④ 世界ジュニア選手権合宿					
	3/21～24	門真スポーツセンター	7	11	18
⑤ 東京五輪強化合宿					
第1回	6/20～25	国立スポーツ科学センター	5	8	13
第2回	7/3～13	国立スポーツ科学センター	7	8	15
第3回	7/26～8/6	国立スポーツ科学センター	8	8	16
第4回	8/25～9/5	国立スポーツ科学センター	12	10	22
第5回	9/14～10/2	国立スポーツ科学センター	13	10	23
第6回	10/7～24	国立スポーツ科学センター	14	10	24
第7回	10/29～11/14	国立スポーツ科学センター／山口きらら博記念公園水泳プール	10	8	18
第8回	11/20～12/16の間	国立スポーツ科学センター	14	10	24
第9回	12/18～1/10	国立スポーツ科学センター	14	9	23
第10回	1/10～2/3	国立スポーツ科学センター	11	9	20
第11回	2/8～28の間	国立スポーツ科学センター	9	9	18
第12回	3/1～22	国立スポーツ科学センター	10	9	19
第13回	3/22～31	国立スポーツ科学センター	9	10	19
⑥ ジャンパー育成強化合宿					
第1回	11/21～22	TSスタジオ／NEO JUDO	16	12	28
第2回	12/5～6	TSスタジオ／NEO JUDO	14	12	26
第3回	2/13～14	平塚市三島カルチャー	12	7	19
第4回	2/27～28	平塚市三島カルチャー	13	10	23
(5) オープンウォータースイミング					
① 東京五輪サポート合宿					

第1回	8/1～8	国立スポーツ科学センター	2	4	6
第2回	8/9～17	浜松市総合水泳場	2	2	4
第3回	8/17～20	静岡県富士水泳場	1	2	3
第4回	8/25～28	国立スポーツ科学センター	1	2	3
第5回	9/15～10/15	国立スポーツ科学センター	3	4	7
第6回	10/17～18	高知県須崎市浦ノ内シーパーク大島	4	4	8
第7回	11/2～26	GMO アスリーツパーク湯の丸	3	4	7
第8回	1/28～2/20	GMO アスリーツパーク湯の丸	1	1	2
第9回	1/28～2/11	静岡県富士水泳場	1	1	2
第10回	3/22～28	GMO アスリーツパーク湯の丸	1	1	2
第11回	3/22～28	新潟県長岡屋内総合プール	1	1	2

② ナショナルチーム合宿

第1回	7/16～19	福井運動公園水泳場／鷹巣・越廼海水浴場	9	18	27
第2回	8/1～5	千葉県館山市営プール／北条海岸	7	18	25
第3回	8/21～23	静岡県富士水泳場／千本松海水浴場	10	14	24
第4回	10/31～11/1	福岡市地行浜	5	16	21
第5回	11/27～29	福岡市地行浜	8	12	20
第6回	12/14～23	静岡県富士水泳場	8	17	25
第7回	1/8～22	静岡県富士水泳場	8	15	23
第8回	3/22～28	静岡県富士水泳場／熱海市長浜海水浴場	10	11	21

《国際交流関係》

I. FINA（国際水泳連盟）関係事業

- (1) 理事会 (12/17・3/3：ウェブ会議) 鈴木 大地
- (2) 委員会
- 飛込 (10/8、12/9：ウェブ会議) 末弘 昭人
- 水球 (6/5：ウェブ会議) 黒田 克己
- AS (5/28、6/1、6/15、6/29、7/13、7/15、8/31、9/18、9/29、10/25、10/27
11/25、2/9、3/22、3/26：ウェブ会議) 本間 三和子
- アスリート (3/26：ウェブ会議) 竹村 馨
- (3) 競技会
- 水球女子オリンピック最終予選会
(1/19～24：イタリア・トリエステ) 黒田 克己
- (4) その他
- FINA Beach Water Polo 小委員会 (7/3：ウェブ会議) 黒田 克己
- FINA 審判会議 (11/7：ウェブ会議) 黒田 克己
- AS TASC 分科会 (9/28、10/17、3/4：ウェブ会議) 本間 三和子
- FINA AS 審判スクール講師 (ウェブ講義)
(5/16・17、23・24：ニュージーランド) 本間 三和子
(12/14～17：インドネシア) 本間 三和子

II. AASF（アジア水泳連盟）関係事業

- (1) コングレス (11/7：オマーン・マスカット) 鈴木 大地 本間 三和子

※ウェブ参加

高橋 繁浩
緒方 茂生

黒田 克己

(2) その他

WP ルール解説講師 (ウェブ講義)

(5/16 : インド)

黒田 克己

(6/4 : AASF)

黒田 克己

(6/20 : シンガポール)

黒田 克己

Ⅲ. パンパシフィック関係事業

(1) チャーターネーション会議

(4/3 : ウェブ会議)

上野 広治

緒方 茂生

(5/19 : ウェブ会議)

上野 広治

緒方 茂生

Ⅳ. 派遣および招聘事業

(1) 競技大会

・水球

女子オリンピック最終予選会

(1/19～24 : イタリア・トリエステ)

・審判

津崎 明日美

《日本スポーツ振興センター業務委託事業》

(1) 飛込競技

① ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト

V 普及事業

1. 指導者養成事業

2020年度も指導者養成事業3委員会の重点施策として、養成講習会参加者数増と更新率の向上を目指した。地域指導者委員会では、コロナ禍にあつて、基礎水泳指導員の新規養成講習会の中止や規模縮小が余儀なくされ登録者数が減少した（2020年度：841名、2019年度：1,003名）。コーチ1・2登録者数は、2021年3月現在10,244名であった（2019年度：10,691名）。加盟団体を通じて資格取得の広報活動を展開するとともに、資格を保有することで得られるメリットの再検討に加え、養成規程の改定およびコロナ禍の影響で中断したコーチ2の養成を通じて、新規養成と未更新者へ登録更新を促す。

競技力向上コーチ委員会では、免除適応コースの実施大学に天理大学が加わり20校となった。今後も引き続き、国内主要大会において新規開拓を積極的に推進する。新規養成（コーチ3）では、コロナ禍の社会情勢を鑑み、対面式を取りやめ初のオンライン形態での開催を試みた。87名が受講し順調に終了した。一方、資格保有者向けの研修会は、全国13会場に対面式にて実施することを予定していたが、コロナ禍の状況を鑑み全て中止とした。コーチ登録者数は、2021年3月現在3,856名となった（対前年比115名増加）。

水泳教師委員会では、一般社団法人日本スイミングクラブ協会と連携し、養成・研修会事業を実施した。コロナ禍の影響を受けて、新規養成では68科目の開催計画をしていたが38科目が中止となった。研修会事業では23会場の実施を計画していたが10会場が中止となった。教師登録者数は、2021年3月現在2,538名（対前年比135名減少）と減少傾向が続いている。今後も更新率向上の方策検討および専門科目カリキュラムの簡素化を図り、免除適応コース実施専門学校・大学の開拓を促進する。また、指導者資格再登録制度を活用し、再登録希望者のフォローを着実にを行う。

(1) 地域指導者養成事業

① JSPO 公認水泳コーチ1・2に関する事業

(ア) JSPO 公認コーチ1事業（新規養成、更新登録）

コーチ1: 8,870名、コーチ2: 1,374名（内マスター認定者214名）、合計10,244名

(イ) 47都道府県加盟団体を通じた指導者養成事業

(ウ) コーチ2養成（ブロック開催）事業：新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

② 本連盟基礎水泳指導員に関する事業

(ア) 47都道府県加盟団体を通じた基礎水泳指導員養成・研修・更新登録

基礎水泳指導員資格単年度登録者数：841名

(イ) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審議（2020年4月～21年3月）：22名

(ウ) 免除適応校専門科目検定（合格者数/受験者数）：16/27名

専門学校：北海道：1/8名、東京都：5/9名、大阪府：4/4名

大学：6/6名

(エ) 地域指導者（普及）委員長会議の開催

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

③ 普及に関する事業

(ア) 水泳の安全対策に関する研究

(イ) 加盟団体各地区委員長会議・研修会の開催・派遣

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

(2) 競技力向上コーチ養成事業

- ① コーチ資格審査（上級昇格 年2回）の実施
競泳 8名・飛込 1名、合計 9名が上級コーチに昇格
- ② コーチ資格の新規および更新登録事業
1163名の新規および更新登録が完了
- ③ コーチ研修会事業（コーチ 11会場・上級コーチ 2会場）
新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
- ④ 養成事業の推進（コーチ）
コーチ 3 87名（競泳 74名、水球 13名）が参加
- ⑤ 免除適応コース実施校の開拓
20校（天理大学追加）
- ⑥ 公認スポーツ指導者管理システムの活用
再登録および養成講習会申込入力時に活用

(3) 水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進（(一社)日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - (ア) 適応コース講習検定会の実施（本連盟が担当）
 - ・東京 YMCA 社会体育専門学校「会場」 2校 2021年1月18日～20日開催
 - 東京 YMCA 社会体育専門学校：対面講習会開催・検定試験実施
 - 大阪社会体育専門学校：同日リモート参加（検定試験は2月10日大阪にて実施）
 - (イ) 新規養成コース講習検定会の実施（(一社)日本スイミングクラブ協会が担当）
 - ・専門科目講習会：68科目開催計画（38科目【中止】）
 - (ウ) 適応コース認定校の新規開拓（本連盟が担当）【中止】
- ② スキルアップ講習会の開催（本連盟が担当）
 - ・スキルアップセミナーⅠ（東京会場）
連合会館「201会議室」 2020年4月25日開催計画、12月13日延期、1月31日再延期
 - ・スキルアップセミナーⅡ（愛知会場）【中止】
 - ・スキルアップセミナーⅢ（神奈川会場）【中止】
- ③ 水泳教師資格の新規・更新登録事業（(一社)日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・2020年4月、10月 「本連盟・SC協合同検定委員会」の開催【中止】
- ④ 水泳教師資格更新研修会事業（(一社)日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・(一社)日本スイミングクラブ協会 全国10支部の各会場にて開催
 - 更新研修会：23会場開催計画（10会場【中止】）
 - ・5月更新研修会受講通知発送（本連盟が担当）
 - ・JSPO「再登録」制度への対応（本連盟が担当）
- ⑤ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（(一社)日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - ・4月・10月認定 認定施設の新規・更新登録事業
 - ・8月・2月「月刊水泳」「SC協ニュース」に在籍施設証明事業パンフレット封入
 - ・本連盟・JSPO HPに「水泳するならこの施設」定時更新

2. 生涯スポーツ事業

(1) 日本スポーツマスターズ大会

本大会は、生涯スポーツのより一層の普及と振興を目的にした、JSPO との共催による、スポーツ愛好者の中で競技志向の高いシニア世代を対象とした大会である。本年度は、アクアパレットまつやま（愛媛県松山市）にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止とした。

大会名	開催期日	会場	参加者数
日本スポーツマスターズ 2020 愛媛大会	2020年9月5日～ 9月6日	アクアパレットまつやま	中止

(2) 水泳の日 2020

本イベントは、「水泳ニッポン・中期計画 2017-2024」に掲げる本連盟の使命の1つ「国民皆泳」を目指した事業であり、世代を超えて、「命を守ることができるスポーツ」水泳のさらなる普及発展、競技力向上、競技人口の裾野を広げるきっかけとして実施されている。本年度は、8月14日に丸善インテック大阪プール（大阪府大阪市）において「水泳の日 2020・大阪」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止とし、2021年8月14日への開催延期となった。加盟団体主催では、東京会場・愛知県名古屋会場・石川県金沢会場・福島県郡山会場の4会場にて、感染防止対策を徹底した上で開催された。

(3) 泳力検定

本事業は、生涯スポーツとしての水泳の普及を目的に 1998 年から実施している。トビウオジャパンの活躍もあり、日本水泳界が一段と盛り上がりを見せている中で、泳力検定会も全国各地で開催され、泳力検定事業が水泳愛好者に浸透してきたことを示している。本年度もオリンピックをゲストに招いて「ニチレイチャレンジ特別泳力検定会」の開催を全国各地で予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う開催中止が相次ぎ、残念ながら3会場での開催に止まった。

さらなる泳力検定の普及のため、泳力検定システムの開発や、ホームページおよび公式 SNS を活用した広範な情報発信に努めた。

3. OWS 普及事業

OWS の安全な普及に必要な事業を以下のとおり実施した。

(1) OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催

(ア) スイムクリニック参加者合計 39 名

(イ) 検定参加者合計 111 名

(2) OWS 審判員養成

(ア) 審判講習会開催（11月22日リモート開催）参加者合計 37 名

(3) OWS 指導員養成

(ア) 指導者講習会 コロナウイルス感染症拡大に伴い中止

(4) OWS 公認コーチ養成

(ア) OWS 公認コーチ3養成講習会 隔年開催のため、開催なし

(5) 認定 OWS 大会の標準化と拡大

(ア) 認定 OWS 大会支援（2020年6月～10月）

須崎 OWS 大会への審判員・安全管理員派遣

※コロナ禍により、10月25日高知県須崎 OWS 大会のみ開催。その他 16 大会は中止。

(イ) 認定 OWS 大会・全国担当者会議の開催（2020年11月18日・リモート会議）

(6) 認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

※1大会のみの開催につき、年間ポイント集計による表彰事業は中止。

4. 日本泳法保存事業

(1) 第 65 回日本泳法大会

本大会は、わが国近代水泳史の礎となった日本泳法の後継者育成と技能の保存と普及を目的に 1956 年より開催され、現在は、現存 13 流派のジュニア（中学生以下）からシニア層までが参加できるよう、12 種目の競技と 7 資格の審査から成っている。

本年度は、8 月 22 日～23 日の日程で兵庫県神戸市において開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、中止の判断をせざるを得なかったことは残念であった。

(2) 第 68 回日本泳法研究会（課題流派：能島流）

前年度延期となり、計画では 2021 年 3 月 27～28 日、（一財）大阪水泳協会主管のもと、東和薬品ラクトブームとリッツカールトン大阪で、それぞれ実技発表と研究発表が行われる予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年の集合方式を断念し、能島流制作の資料と DVD による自学自習方式として開催した（記録上、資料送付日の 3 月 5 日を開催日とした）。

参加者数は 406 名で、これは前年の延期決定直前の申込数を約 100 名上回った。3 月 27 日に初開催したオンライン交流会には 13 流派全てから合計 96 名が参加、オンラインを通してではあったが、2019 年 8 月の日本泳法大会以来、約 1 年半ぶりに全国の日本泳法の仲間の交流を図ることができた。

(3) 第 13 回日本泳法研鑽会

日本泳法研究会 2 日目終了後に開催予定であったが、上記の理由により中止となった。

(4) 游士資格審査会（和歌山会場）、同（東京会場）

4 月に和歌山で、9 月以降に東京でそれぞれ游士資格審査会を開催予定であったが、上記同様の理由で中止となった。

(5) その他

第 68 回日本泳法研究会と時期を併せて、「流派連絡会議」「資格審査専門委員会」を文書会議で、また「審判研修会」をレポート方式でそれぞれ開催した。

5. 機関誌「月刊水泳」発行事業

コロナ禍で 3 月末から約 6 か月間競技会が行われなかったため、大会速報や報告などが一切掲載できなかった。そこで、前回 1964 年の東京オリンピックを振り返る記事や、選手たちに協力いただいて自主トレーニングの様子の写真やコメントを掲載した。しかしながら、例年に比べると各号のページ数は少なくなった。

6. 広報関係

(1) ホームページ（HP）の管理・更新事業

上半期は大半の競技会が開催されなかったため、トピックスの更新が滞った。その結果、HP へのアクセスも例年よりも少ない数字で推移した。下半期は競技会が再開され、徐々にアクセス数も回復した。セキュリティ脆弱性によるトラブルが増えてきたこともあり、「水泳ニッポン・中期計画 2017 - 2024」に基づき、情報システム委員会、総務委員会とともに HP のリニューアル作業に着手した。

(2) 広報・報道対応事業

競技会再開後は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、競技委員会などの協力のもと、選手と報道

陣の接触を避けることを最重点課題として、オンライン経由による会見や、マイクとスピーカーを使ったインタビューなどを行った。報道関係者の協力もあり、比較的スムーズに進行することができた。

VI 組織運営のための共通事業

1. 総務関係事業

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対策を日々講じつつ、各種対応に注力した。本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有および意思疎通を図り、円滑な業務遂行を図った。「水泳ニッポン・中期計画 2017-2024」の進捗管理・公表を行った。「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞適合性審査」の対応を行うとともに、本連盟を取り巻く社会環境の変化に即応した各種規程の改廃、オンラインによる業務推進を図った。本連盟事務局の労務環境を管轄し、各種業務の効率化を目指す取り組みを実施した。

(1) 地域会議の開催

例年のとおり、10月から12月にかけて全国9ブロックの各地に出向き、本連盟の事業方針や重点施策についての説明、質疑応答、情報交換を実施した。

(2) 中期計画の進捗管理・公表

「水泳ニッポン・中期計画 2017-2024 (2019年度進捗報告)」を本連盟ホームページに掲載し、掲げた目標の進捗状況を報告した。

(3) ガバナンスコード適合性審査対応、規程・ガイドラインなどの改廃および策定

「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞適合性審査」に向けた準備、対応を行うとともに、各種規程・ガイドラインなどの改廃および策定を実施した。

(4) オンラインによる業務推進

本連盟事務局への立ち入りを原則禁止とし、全委員会を対象に、各種作業や会議をオンラインで行うことで、新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底を図った。

2. アスリート委員会関係

(1) FINA アスリート委員会への意見集約

FINA アスリート委員会の議題を共有するとともに、委員およびわが国における水泳の指導現場からの考えや意見を集約し、FINA アスリート委員会に提出した。

(2) 競技者としてのモラルの向上、啓発活動の実施

JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会などの競技会場において、選手・保護者・指導者に向けたトークショーを予定していたが、コロナ禍の影響を受け大会が中止となった。そのため、本連盟公式 SNS を使用し、アスリート委員からジュニアアスリートへ応援メッセージを送付した。

(3) 社会貢献活動の実施

国民体育大会が中止となり、活動中止となった。

(4) オリンピアン OBOG へ向けた情報の発信、事業協力の呼びかけ

JOC オリンピアン研修会などの情報をオリンピック OBOG へ共有するとともに、本連盟の水

泳普及事業の説明や協力依頼を行った。

3. その他の普及事業

(1) ぱちゃぼなどに関わるライセンス事業

本連盟公認キャラクター「ぱちゃぼ」を活用したライセンス事業を、関係企業と連携して実施した。

《 競技条件整備事業関係 》

1. 競技者・競技役員役員登録数

2021年3月31日現在

		競技者	団体	会員	競技役員
1	北海道	2,395	141	1	96
2	青森	860	51	0	18
3	岩手	999	46	1	25
4	宮城	1,883	87	0	87
5	秋田	809	48	0	22
6	山形	1,149	56	0	15
7	福島	1,124	65	13	84
8	茨城	1,905	112	2	76
9	栃木	1,322	70	1	53
10	群馬	1,565	81	3	73
11	埼玉	5,405	173	4	127
12	千葉	3,693	158	1	76
13	東京	9,807	529	0	451
14	神奈川	6,424	236	6	112
15	山梨	733	28	0	18
16	長野	1,769	118	17	43
17	新潟	2,028	97	0	91
18	富山	796	50	38	51
19	石川	1,033	55	0	87
20	福井	558	42	0	24
21	静岡	3,491	172	17	112
22	愛知	6,380	270	41	220
23	三重	1,464	82	2	86
24	岐阜	1,669	79	0	63
25	滋賀	1,228	53	2	25
26	京都	2,007	92	2	41
27	大阪	6,484	299	4	119

		競技者	団体	会員	競技役員
28	兵庫	5,566	295	1	73
29	奈良	1,109	42	1	25
30	和歌山	1,038	51	0	47
31	鳥取	798	65	0	29
32	島根	370	22	0	33
33	岡山	1,104	45	3	45
34	広島	1,795	113	20	47
35	山口	1,099	55	0	29
36	香川	1,089	46	0	25
37	徳島	431	28	6	0
38	愛媛	1,453	74	2	38
39	高知	813	47	0	0
40	福岡	3,712	190	2	57
41	佐賀	782	48	0	15
42	長崎	1,647	95	0	44
43	熊本	1,794	96	0	51
44	大分	638	54	0	3
45	宮崎	755	78	0	18
46	鹿児島	1,737	92	6	102
47	沖縄	1,023	59	1	23
学生委員会	関東	2,847	92		
	中部	852	34		
	関西	1,153	52		
	中四国	524	32		
	九州	471	23		
北部	409	72			
合計	103,989	5,190	197	2,999	

※競技者数は実数で表示

2. 各種審判員登録数

2021年3月31日現在

		競泳審判			飛込審判			水球審判					A S 審判			O W S 審判		
		A	B	C	A	B	C	上級	1級	2級	3級	4級	A	B	C	A	B	C
1	北海道	2	17	75			1						1	1	1			
2	青森	0	8	10														
3	岩手	0	5	18											2			
4	宮城	4	9	67			1			1	1		1		4			
5	秋田	2	6	14							1				1			
6	山形	0	2	5							1	3		1				
7	福島	3	46	33														
8	茨城	2	29	26	2	2	1				1	4	1		1			
9	栃木	3	14	31			1											
10	群馬	0	15	55														
11	埼玉	4	38	52				1			1	1			1			
12	千葉	2	19	27				2		2	3	5		2	2			
13	東京	2	36	306	2	1	1	1		4	4	7	2	3	20			
14	神奈川	3	41	53					1		2		1	2	4			
15	山梨	0	13	5						1								
16	長野	1	10	31								3		1	4			
17	新潟	2	20	54	1			1		1		1			2			1
18	富山	2	13	22										3	1			
19	石川	1	39	25			2		1		2		1		1			
20	福井	0	3	21											1			
21	静岡	8	45	59						1		3			1			
22	愛知	2	20	187		3	4	1				2			1			16
23	三重	1	18	35		1	6				2	1		1				10
24	岐阜	0	13	43							1	1						
25	滋賀	3	2	13								1			1			3
26	京都	0	9	23				1		1	1	1			2			
27	大阪	4	57	46								1						35
28	兵庫	2	21	42	1		1			2	1	1		1				1
29	奈良	1	2	22														
30	和歌山	0	6	39		1					2	1						
31	鳥取	0	11	11				1			1	1						
32	島根	0	6	23								1						
33	岡山	0	8	28				1				1						
34	広島	0	16	17		1						3			1			
35	山口	1	9	17							1	4						1
36	香川	0	11	10	1		1	1										
37	徳島	0	0	0					1		1							
38	愛媛	1	15	22														
39	高知	0	0	0								9						
40	福岡	1	12	37		2	1	1	1						3			25
41	佐賀	0	5	6														1
42	長崎	1	22	14							2							
43	熊本	2	13	33						1	1	2						
44	大分	0	1	2	1													
45	宮崎	1	12	5								1						
46	鹿児島	0	46	56						1								1
47	沖縄	0	14	6		1												
学生委員会	関東																	
	中部																	
	関西																	
	中国																	
九州																		
合計	61	777	1,726	8	12	20	11	4	15	29	58	7	15	54	0	0	94	

3. 指導・講習・研修

(1) 競泳: 競技役員・審判研修会、競技会指導

競技委員会

開催種別	開催県	開催会場	開催期日	参加人数	備考
学生	学生(委)関東支部	オンライン	10月10日	200名	新規のみ(競泳)

コロナ禍の影響のため、対面での研修会はすべて中止

(2) 飛込: 審判員研修会

飛込委員会

A級	B級	C級	C級取得予定	合計
65名	70名	56名	15名	206名

コロナ禍の影響のため、対面での実施ではなく、オンラインでの動画視聴とテストの実施

(3) 水球: 審判員・指導者講習会、審判員派遣

水球委員会

ブロック名	場所	開催日程	参加人数
東北ブロック	オンライン講習会	7月26日	19名
関東ブロック	オンライン講習会	7月19日	80名
東海ブロック	オンライン講習会	8月2日	60名
北信越ブロック	オンライン講習会	8月2日	57名
近畿ブロック	オンライン講習会	7月26日	42名
中国ブロック	オンライン講習会	8月2日	26名
四国ブロック	オンライン講習会	7月19日	18名
九州ブロック	オンライン講習会	7月26日	43名

(4) AS: 審判長派遣、審判員研修会・講習会

AS委員会

① 審判長派遣事業

	期 日	派遣先	大 会	派 遣
1	8月16日(日)	埼玉	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (埼玉)	山田 智子
2	8月23日(日)	茨城	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (茨城)	井上 信子
3	8月23日(日)	大阪	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (近畿)	樋口 育子
4	9月6日(日)	千葉	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (千葉)	小川みゆき
5	9月20日(日)	宮城	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (東北)	山田 智子
6	9月20日(日)	富山	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (北信越)	齋藤 由紀
7	9月21日(月・祝)	神奈川	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (神奈川)	滝田理絵子
8	9月26日(土)・27日(日)	東京	全国 JOCジュニアオリンピックカップ分散大会 (東京)	田中 洋子
9	3月28日(日)	富山	日本選手権北信越ブロック	山田 智子

②公認 AS 審判研修会

	期 日	主 催	講 師	備 考
1	8月16日(日)	埼 玉	山田 智子	参加者数:5名 B級(1名)・C級(4名)
2	8月23日(日)	茨 城	井上 信子	参加者数:3名 C級(3名)
3	8月23日(日)	大 阪	樋口 育子	参加者数:21名 B級(6名)・C級(15名)
4	9月6日(日)	千 葉	小川みゆき	参加者数:6名 B級(3名)・C級(3名)
5	9月20日(日)	宮 城	山田 智子	参加者数:10名 B級(2名)・C級(8名)
6	9月20日(日)	富 山	齋藤 由紀	参加者数:21名 B級(8名)・C級(13名)
7	9月21日(月・祝)	神奈川	滝田理絵子	参加者数:7名 C級(7名)
8	9月26日(土)・27(日)	東 京	田中 洋子	参加者数:11名 B級(5名)・C級(6名)
9	11月1日(日)	北海道	田中 洋子	参加者数:4名 C級(4名)
10	3月28日(日)	富 山	山田 智子	参加者数:20名 B級9名・C級10名・他1名

③その他の活動

1. 新規登録および更新登録受付処理 (7月)
2. JO 分散大会、ジャッジミーティング内容の提供協力
3. 大会におけるジャッジの推薦とアサイメント作成
4. 登録更新者申請書発送
5. オンライン学習用コンテンツの作成作業

(5)OWS:審判員講習会

OWS 委員会

	開催地	開催会場	開催期日	派遣講師名	参加人数
本連盟	東京	代々木(Zoom 配信)	2020年11月22日	亀田・石井・藤澤	37名

(6)科学

科学委員会

2020年日本水泳・水中運動学会年次大会 日本水泳・水中運動学会主催、日本福祉大学共催、 (公財)日本水泳連盟後援	11月14日・ 15日	オンライン	90名
---	----------------	-------	-----

(7)医事

医事委員会

第8回水泳競技メディカルサポート研究会	11月21日	オンライン	ドクター52名 トレーナー61名
夏季研修会	中止		
水泳競技メディカルサポートミーティング	12月11日	オンライン	100名
BLS 研修会	中止		
基礎研修会	3月13日・ 28日	オンデマンド	81名

関西ブロック合同研修会	10月24日	オンライン	54名
関東ブロック合同研修会	中止		
九州・沖縄、中国・四国ブロック合同研修会	1月30日	オンライン	61名
中部・北信越、東北・北海道ブロック合同研修会	2月13日	オンライン	34名

4. 日本新記録および学生・高校・中学・学童記録の公認

		9/29		10/12		10/22		12/2		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
長水路	日本記録	男子			男子			男子		
		女子			女子			女子		
		混合			混合			混合		
	学生記録	男子		4	男子			男子	1	
		女子			女子	4		女子		
高校記録	男子		1		男子			男子		
	女子				女子			女子		
中学記録	男子			1	男子	1		男子		
	女子				女子			女子		
学童記録	男子				男子			男子		
	女子				女子			女子		
短水路	日本記録	男子			男子		7	男子	6	
		女子			女子			女子	1	
		混合			混合			混合		
	学生記録	男子				男子		4	男子	1
		女子				女子			女子	3
	高校記録	男子				男子		1	男子	1
		女子				女子			女子	
	中学記録	男子				男子			男子	
		女子				女子			女子	
	学童記録	男子				男子			男子	
女子					女子			女子		

		12/17		1/21		2/3		2/8		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
長水路	日本記録	男子			男子		1	男子	1	
		女子			女子			女子		
		混合			混合			混合		
	学生記録	男子				男子		3	男子	1
		女子				女子			女子	2
高校記録	男子		1		男子			男子		
	女子				女子			女子		
中学記録	男子				男子		3	男子	2	
	女子				女子			女子	1	
学童記録	男子				男子			男子		
	女子				女子			女子		
短水路	日本記録	男子	1		男子			男子		
		女子		3		女子			女子	
		混合				混合			混合	
	学生記録	男子	3		1	男子	1		男子	
		女子		3		女子			女子	
	高校記録	男子				男子			男子	
		女子				女子			女子	
	中学記録	男子		1		男子			男子	
		女子				女子			女子	
	学童記録	男子				男子			男子	
女子					女子			女子		

		3/5	
		男子	女子
長水路	日本記録	男子	
		女子	
		混合	
	学生記録	男子	
		女子	1
高校記録	男子		
	女子		
中学記録	男子	2	
	女子		
学童記録	男子		
	女子		
短水路	日本記録	男子	
		女子	1
		混合	
	学生記録	男子	
		女子	
	高校記録	男子	2
		女子	
	中学記録	男子	1
		女子	
	学童記録	男子	2
女子			

5. プール公認

50m (新3・再43)

種別	公認番号	プール名称	都道府県	有効期限日	材質	屋内外
50m	5677	北九州市立桃園市民プール	福岡県	2025/4/30	SS	内
50m	5678	栃木県総合運動公園屋内水泳場 50m プール	栃木県	2025/11/30	RC	内
50m	5679	福岡大学プール	福岡県	2026/3/31	RC	内
50m	再 5514	取手市グリーンスポーツセンター総合体育館室内プール	茨城県	2025/4/30	RC	内
50m	再 5588	宮城県総合プール(国際)	宮城県	2025/8/31	RC	内
50m	再 5579	世田谷区立総合運動場水泳場	東京都	2025/5/31	RC	内
50m	再 5580	阿蘇市温水プール	熊本県	2025/5/31	RC	内
50m	再 5515	玉名市民プール	熊本県	2025/6/30	PC	外
50m	再 5581	東大阪市立総合体育館屋内プール	大阪府	2025/5/31	RC	内
50m	再 5456	京都府立山城総合運動公園 50m プール	京都府	2025/5/31	RC	外
50m	再 5517	米沢市営プール	山形県	2025/6/30	PC	外
50m	再 5623	栃木県立温水プール館	栃木県	2025/6/30	SS	内
50m	再 5464	松任総合運動公園水泳プール	石川県	2025/9/30	PS	外
50m	再 5641	すわかランド	長野県	2025/4/30	SS	外
50m	再 5250	長野東高等学校プール	長野県	2025/5/31	RC	外
50m	再 5453	松山大学御幸プール	愛媛県	2025/3/31	RC	外
50m	再 5642	松山中央公園プール	愛媛県	2025/5/31	RC	内
50m	再 5519	香川県立総合水泳プール	香川県	2025/7/31	RC	外
50m	再 5378	平田愛宕山プール	島根県	2025/9/30	RC	外
50m	再 5550	末広屋外水泳プール	石川県	2027/7/31	PC	外
50m	再 5643	福岡県営筑豊緑地 50m 公認プール	福岡県	2025/6/30	SS	外
50m	再 5520	福井運動公園水泳場	福井県	2025/7/31	RC	外
50m	再 5654	山口きらら博記念公園水泳プール	山口県	2026/1/31	RC	内
50m	再 5521	長田いこいの広場プール	長崎県	2025/8/31	SS	外
50m	再 5462	今治市営波方公園プール	愛媛県	2025/7/31	S	外
50m	再 5524	鳥取市河原市民プール	鳥取県	2025/9/30	RC	外
50m	再 5590	大田区萩中水泳場	東京都	2025/9/30	FRP	外
50m	再 1137	杉並区和田堀公園プール	東京都	2025/6/30	RC	外
50m	再 5458	王子公園プール	兵庫県	2025/6/30	RC	外
50m	再 5014	愛知県一宮総合運動場	愛知県	2025/7/31	RC	外
50m	再 5589	曾於市民プール 50m プール	鹿児島県	2025/9/30	SS	外
50m	再 5591	橿原市総合プール	奈良県	2025/10/31	RC	外
50m	再 5525	広島大学(西条)プール	広島県	2025/10/31	AL	外
50m	再 1048	三次市営十日市水泳プール	広島県	2025/9/30	RC	外
50m	再 96	千葉公園水泳プール	千葉県	2025/12/31	RC	外
50m	再 5528	長良川スイミングプラザ	岐阜県	2025/12/31	RC	外
50m	再 5526	静岡県立水泳場	静岡県	2025/10/31	RC	内
50m	再 5624	川崎市立橘高等学校プール	神奈川県	2025/10/31	FRP	外
50m	再 5384	野田市総合公園水泳場	千葉県	2025/11/30	AL	外
50m	再 5663	福岡県営筑後広域公園プール	福岡県	2026/6/30	SS	外
50m	再 5644	豊橋市屋内プール・アイスアリーナ	愛知県	2025/11/30	RC	内
50m	再 5585	飯田運動公園 50m 競泳プール	長野県	2025/6/30	SS	外
50m	再 5655	鴨池公園水泳プール	鹿児島県	2026/1/31	FRP	内
50m	再 5593	千葉県国際総合水泳場	千葉県	2026/3/31	RC	内
50m	再 5594	千葉県国際総合水泳場(サブプール)	千葉県	2026/3/31	RC	内
50m	再 5530	平塚総合体育館温水プール(併用)	神奈川県	2026/3/31	RC	内

25m (新7・再52)

種別	公認番号	プール名称	都道府県	有効期限日	材質	屋内外
25m	2926	北九州市立桃園市民プール	福岡県	2025/4/30	SS	内
25m	2927	戸田市スポーツセンター屋内プール	埼玉県	2025/5/31	SS	内
25m	2928	栃木県総合運動公園屋内水泳場併用プール	栃木県	2025/11/30	RC	内
25m	2929	栃木県総合運動公園屋内水泳場併用(飛込)	栃木県	2025/11/30	RC	内
25m	2930	金田 SC 立川立飛	東京都	2025/12/31	FRP	内
25m	2931	フィットネスクラブ FLAT	長野県	2026/3/31	FRP	内
25m	2932	福岡大学プール	福岡県	2026/3/31	RC	内
25m	再 2268	高岡市営長慶寺室内プール	富山県	2025/3/31	S	内
25m	再 2905	五城目町屋内温水プール	秋田県	2025/3/31	SS	内
25m	再 2904	阿久根市 B&G 海洋センタープール	鹿児島県	2025/3/31	S	内
25m	再 2838	エス・パティオスポーツクラブ	兵庫県	2025/7/31	SS	内
25m	再 2634	出水市温水プール	鹿児島県	2025/4/30	RC	内
25m	再 2757	宮城県総合プール(国際・併用)	宮城県	2025/8/31	RC	内
25m	再 2758	宮城県総合プール・サブプール	宮城県	2025/8/31	RC	内
25m	再 2622	勝山市営温水プール	福井県	2024/10/31	RC	内
25m	再 2869	姫路市立総合スポーツ会館プール	兵庫県	2025/5/31	SS	内
25m	再 2833	広島県立みよし公園温水プール	広島県	2025/5/31	SS	内
25m	再 2484	京都府立山城総合運動公園 25m プール	京都府	2025/5/31	RC	内
25m	再 2087	徳島県蔵本公園プール	徳島県	2025/5/31	RC	外
25m	再 2836	栃木県立温水プール館	栃木県	2025/6/30	SS	内
25m	再 2759	(一財)島根県水泳連盟立松江室内プール	島根県	2025/8/31	RC	内
25m	再 2871	松本歯科大学体育館屋内プール	長野県	2025/6/30	RC	内
25m	再 2761	大分市営温水プール	大分県	2025/10/31	SS	内
25m	再 2870	松山中央公園プール(併用)	愛媛県	2025/5/31	RC	内
25m	再 2638	香川県立総合水泳プール	香川県	2025/7/31	RC	内
25m	再 2279	ヤクルト八戸スイミングスクール	青森県	2025/7/31	AL	内
25m	再 2275	中京大学附属中京高校屋内温水プール	愛知県	2025/5/31	AL	内
25m	再 2907	福井県営水泳場屋内プール	福井県	2025/11/30	FRP	内
25m	再 2891	山口きらら博記念公園水泳プール	山口県	2026/1/31	RC	内
25m	再 2760	愛知学院大学スポーツセンタープール	愛知県	2025/9/30	RC	内
25m	再 2644	滋賀県立障害者福祉センター	滋賀県	2025/8/31	FRP	内
25m	再 2837	マリンスパあたま 25m プール	静岡県	2025/7/31	SS	内
25m	再 2641	アプロス日新温水プール	北海道	2025/8/31	RC	内
25m	再 2601	小金井市総合体育館プール	東京都	2024/6/30	SS	内
25m	再 2281	東京ドルフィンクラブ桜台SS	東京都	2025/7/31	RC	内
25m	再 2486	エリエールスポーツクラブ	愛媛県	2025/6/30	SS	内
25m	再 2741	おおい町フィットネスセンター温水プール	福井県	2025/1/31	SS	内
25m	再 2890	昭和学院中学・高等学校温水プール	千葉県	2025/10/31	SS	内
25m	再 2841	安城市スポーツセンター	愛知県	2025/12/31	SS	内
25m	再 2650	長良川スイミングプラザ	岐阜県	2025/12/31	RC	内
25m	再 2857	静岡県立水泳場	静岡県	2025/10/31	RC	内
25m	再 2646	佐久長聖高等学校室内プール	長野県	2025/10/31	SS	内
25m	再 2648	大教スイミングスクールいわき	福島県	2025/11/30	RC	内
25m	再 2199	高島平スイミングスクール	東京都	2025/12/31	AL	内
25m	再 2649	白老町民温水プール	北海道	2025/12/31	RC	内
25m	再 2894	鴨池公園水泳プール	鹿児島県	2026/1/31	FRP	内
25m	再 2660	ヘルシーランド福島屋内プール	福島県	2026/3/31	RC	内
25m	再 2893	宮崎市石崎の杜 鯨館	宮崎県	2026/1/31	FRP	内
25m	再 2765	岩見沢市温水プール	北海道	2026/3/31	RC	内

25m	再 2892	川崎多摩スポーツセンター	神奈川県	2026/1/31	RC	内
25m	再 2655	氷見市民プール・トレーニングセンター	富山県	2026/1/31	RC	内
25m	再 2500	ふれ愛フィールドプリオール	広島県	2025/11/30	RC	内
25m	再 2652	紋別市健康プール	北海道	2026/1/31	RC	内
25m	再 2762	千葉県国際総合水泳場(メインプール)	千葉県	2026/3/31	RC	内
25m	再 2662	山口市小郡屋内プール	山口県	2026/4/30	FRP	内
25m	再 2764	鯉ヶ沢町室内温水プール	青森県	2026/3/31	RC	内
25m	再 2659	平塚総合体育館温水プール(併用)	神奈川県	2026/3/31	RC	内
25m	再 2658	ピュアスポーツ柏原	兵庫県	2026/3/31	FRP	内
25m	再 2311	皇子が丘公園プール	滋賀県	2026/3/31	RC	内

飛込 (新 1・再 10)

種別	公認番号	プール名称	都道府県	有効期限日	材質	屋内外
飛込	飛 82	栃木県総合運動公園屋内水泳場飛込プール	栃木県	2025/11/30	RC	内
飛込	再飛 57	宮城県総合プール	宮城県	2025/8/31	RC	内
飛込	再飛 25	徳島県蔵本公園プール	徳島県	2025/5/31	RC	外
飛込	再飛 43	米沢市営プール	山形県	2025/6/30	PC	外
飛込	再飛 36	松任総合運動公園飛込プール	石川県	2025/9/30	PC	外
飛込	再飛 44	郡山カルチャーパーク	福島県	2025/6/30	RC	外
飛込	再飛 45	香川県立総合水泳プール飛込	香川県	2025/7/31	RC	外
飛込	再飛 48	長良川スイミングプラザ	岐阜県	2025/12/31	RC	外
飛込	再飛 47	静岡県立水泳場	静岡県	2025/10/31	RC	内
飛込	再飛 79	鳴池公園水泳プール	鹿児島県	2026/1/31	RC	外
飛込	再飛 58	千葉県国際総合水泳場(国際)	千葉県	2026/3/31	RC	内

標準 (新 0・再 3)

種別	公認番号	プール名称	都道府県	有効期限日	材質	屋内外
標準 25m	再標 0195	中央大学屋内プール	東京都	2025/12/31	RC	内
標準 50m	再標 0099	池田中学校プール	徳島県	2025/10/31	RC	外
標準 50m	再標 0175	高砂市民プール	兵庫県	2026/1/31	SS	外

《普及事業》

1. 指導者養成関係

①地域指導者研修会・講習会

地域指導者委員会

2020年度 地域指導者委員会に関する主な事業	
水泳コーチ養成に関する事業	
コーチ2養成講習会（福島）→新型コロナウイルス感染症により中止	
基礎水泳指導員・公認水泳コーチ1 養成講習会47都道府県加盟団体で実施 マスター称号：214名 コーチ2：1,374名 コーチ1：8,870名 基礎水泳指導員 841名（単年度登録者数）	
免除適応校専門科目検定（合格者数）	
北海道会場：1名 東京会場：5名 大阪会場：4名 大学：6名	
アスリート免除 2020年4月～2021年3月 22人	
研修に関する事業	
基礎水泳指導員・公認水泳コーチ1・2 更新研修会 （47都道府県加盟団体で実施）	
会議に関する事業	
第43回全国地域指導者（普及）委員長会議 新型コロナウイルス感染症により中止	
北海道・東北地区委員長会議 関東地区委員長会議 北信越地区委員長会議 東海地区委員長会議 近畿地区委員長会議 中国地区委員長会議 四国地区委員長会議 九州地区委員長会議 全て中止・未実施	

②コーチ研修会・講習会

競技力向上コーチ委員会

- (1)コーチ3 研修会 コロナ禍の影響を受け、11会場すべて中止
 (2)コーチ4 研修会 コロナ禍の影響を受け、2会場すべて中止
 (3)コーチ養成講習会

種別	期日・形態	競泳	飛込	水球	AS	OWS	合計
コーチ3	11月1日～20日 個人学習 11月21日～23日 オンライン講習	84名		13名			97名

③水泳教師研修会

水泳教師委員会

(ア)水泳教師資格更新研修会 全国 23 会場 受講者数 463 人 (一社)日本スイミングクラブ協会にて実施

管 轄	場 所	研修会名	開催日	教師更新者人数
全国	近畿	ストレス予防改善水泳指導者研修会	5月9・10日	中止
全国	関東	内科的疾患予防改善水泳指導者研修会	6月6・7日	中止
全国	関東	アクア全国研修会	7月19日	18名
全国	近畿	循環器系疾患予防改善水泳指導者研修会	9月5・6日	7名
全国	近畿	全国水泳指導者特別研修会(学童)	10月25日	17名
全国	関東	整形外科的疾患予防改善水泳指導者研修会	10月31日11月1日	36名
全国	近畿	転倒・寝たきり予防改善研修会	2月6・7日	中止
全国	関東	肥満予防改善研修会	3月20・21日	55名
北海道	北海道	水泳指導者研修会兼資格更新研修会	1月23・24日	11名
東北	東北	令和2年度第1回水泳指導者研修会(ベビー)	8月30日	中止
東北	東北	令和2年度第2回水泳指導者研修会(アクア)	12月13日	24名
関東	関東	指導力向上セミナー	7月5日	中止
関東	関東	ベビー水泳指導者研修会	11月15日	中止
関東	関東	障害児・障害者水泳指導者研修会	2月11日	中止
信越	信越	指導力向上セミナー	12月13日	27名
北陸	北陸	指導者研修会兼更新研修会	11月8日	中止
東海	東海	妊婦水泳指導者研修会	12月1日	中止
東海	東海	第30回競泳研究会	1月24日	6名
東海	東海	ベビースイミング研修会	2月14日	18名
近畿	近畿	水泳指導者研修会兼更新研修会	2月28日	20名
四国	四国	成人水泳指導者研修会	10月30日	7名
九州	九州	第1回九州指導者研修会	9月20日	中止
九州	九州	第2回九州指導者研修会	2月28日	13名
合 計				259名

(イ) 水泳教師養成講習会(受講者)

【新規養成コース】(一社)日本スイミングクラブ協会担当 専門科目受講者 延べ188名

支 部	科 目	開催日	受講者数	合格者数	不合格数	(欠席)	(不合格)
北海道	基本	9月26日	中止				
	成人	9月27日	中止				
	幼児	12月5日	中止				
	学童	12月6日	中止				
	競技	1月30日	中止				
東北	学童	7月12日	9	9	0	0	0
	幼児	8月30日	7	5	2	1	1
	ベビー	8月30日	中止				
	成人	10月20日	8	7	7	0	1
	妊婦	10月25日	中止				
	競技	11月22日	9	6	3	2	1
	高齢者	12月20日	中止				
	基本	1月17日	5				
	施設	2月14日	中止				
	関東	基本	8月13日	中止			
幼児		8月14日	中止				
学童		8月15日	中止				
成人		8月16日	中止				
競技		8月17日	中止				
妊婦		8月17日	中止				
安全		8月18日	中止				
ベビー		11月15日	中止				
信越	基本	5月5日	中止				
	成人	6月14日	3	3	0	0	0
	学童	8月9日	5	5	0	0	0
	成人	8月9日	3	3	0	0	0
	学童	9月6日	2	2	0	0	0
	幼児	11月1日	8	8	0	0	0
	競技	11月1日	5	5	0	0	0
	幼児	11月15日	中止				
	競技	11月15日	中止				
北陸	幼児	5月13日	中止				
	学童	7月12日	8	8	0	0	0
	基本	9月13日	6	6	0	0	0
	成人	11月1日	8	8	0	0	0
	競技	3月7日					
東海	基本	4月26日	中止				
	学童	5月31日	中止				
	幼児	6月28日	中止				
	成人	8月2日	12	10	2	0	2
	競技	10月18日	9	9	0	0	0
近畿	基本	9月6日	5	5	0	0	0
	ベビー	9月6日	2	2	0	0	0
	幼児	10月18日	11	11	0	0	0
	高齢者	10月18日	2	1	1	0	1
	学童	11月29日	8	8	0	0	0
	妊婦	11月29日	3	3	0	0	0
	成人	12月20日	9	9	0	0	0
	施設	12月20日	3	3	0	0	0
	競技	1月24日	8	7	1	1	1
中国	基本	5月19日	中止				
	幼児	6月16日	中止				
	学童	9月15日	7	7	0	0	0
	成人	10月27日	5	5	0	0	0
	競技	11月17日	6	6	0	0	0
	安全	2月16日	中止				
四国	基本	10月29日	中止				
	成人	10月30日	12	12	0	0	0
九州	基本	6月28日	中止				
	成人	6月29日	中止				
	基本	10月29日	中止				
	幼児	10月30日	中止				
	学童	1月29日	中止				
競技	1月30日	中止					
計			188	173	16	4	7

【適応認定コース】 (本連盟 担当)

適応コース	開催日	開催地	合格	不合格
東京 YMCA 社会体育専門学校	1月18～20日	東京都	7	0
大阪社会体育専門学校	1月18～20日	リモート	(6)	
大阪社会体育専門学校(検定)	2月10日	大阪府	6	0
計			13	0

(ウ)水泳教師在籍施設証明事業 (JSP0 共同事業)

	新規	更新	総数
2020年04月01日 認定	2	10	
2020年10月01日 認定	2	11	
2020年度末 認定施設数	4	21	159

(エ)スキルアップセミナー

	開催日	開催地	参加者数
中野サンプラザ 8F「研修室5・6」	12月6日	東京都	延期
中野サンプラザ 7F「研修室10」	1月31日	東京都	延期
連合会館「201会議室」	4月25日	東京都	中止
名古屋会場	2月	愛知県	中止
神奈川会場(新設)	3月	神奈川県	中止

2. 各種指導員登録数

2021年3月31日現在

	JSPO公認指導者資格						本連盟公認
	コーチ1	コーチ2	コーチ3	コーチ4	教師	上級教師	基礎水泳指導員
北海道	850	77	124	13	118	14	78
青森	77	28	12	8	5		1
岩手	107	12	27	3	9		15
宮城	104	33	27	11	34	14	27
秋田	95	11	15	8	2		12
山形	98	16	22	11	17	5	7
福島	206	45	42	4	27	4	0
茨城	204	22	67	28	35	7	17
栃木	163	23	40	11	27	2	44
群馬	143	25	63	14	32	6	42
埼玉	575	50	209	56	154	17	36
千葉	189	12	143	30	78	11	33
東京	1,503	246	590	148	324	81	128
神奈川	451	66	230	79	168	33	46
山梨	37	8	11	9	6	1	10
長野	61	6	48	10	81	18	6
新潟	392	63	68	15	42	8	2
富山	117	42	45	17	25	7	19
石川	59	16	30	9	26	3	3
福井	37	4	18	6	50	2	0
静岡	325	19	84	31	61	7	41
愛知	411	71	151	49	128	46	57
三重	195	28	54	16	35	7	5
岐阜	193	13	25	7	28	6	0
滋賀	133	12	37	15	19	4	0
京都	118	21	41	20	37	8	12
大阪	146	41	155	55	127	20	11
兵庫	247	40	106	38	52	10	30
奈良	63	6	26	10	17	2	4
和歌山	23	12	22	9	18	5	0
鳥取	37	14	17	7	10		4
島根	74	8	25	9	18	7	10
岡山	115	9	33	17	34	5	13
広島	177	20	58	15	31	10	11
山口	108	11	24	9	13	5	4
香川	68	24	22	9	26	9	0
徳島	28	11	11	6	13	1	0
愛媛	97	43	14	7	16	4	0
高知	62	23	15	4	5	1	13
福岡	162	12	90	28	64	16	29
佐賀	31	3	20	1	4	2	0
長崎	72	16	12	5	11	4	10
熊本	147	58	22	4	17		32
大分	66	2	21	4	12	2	6
宮崎	40	9	12	3	12	1	14
鹿児島	133	28	29	5	28	3	0
沖縄	131	15	21	5	17	8	9
合計	8,870	1,374	2,978	878	2,113	426	841

3. 泳力検定実施状況

都道府県	2016年度 (2016/4/1～2017/3/31)		2017年度 (2017/4/1～2018/3/31)		2018年度 (2018/4/1～2019/3/31)		2019年度 (2019/4/1～2020/3/31)		2020年度 (2020/4/1～現在)	
	受検者数	合格者数	受検者数	合格者数	受検者数	合格者数	受検者数	合格者数	受検者数	合格者数
1 北海道	3,814	2,711	4,351	2,928	3,357	2,272	3,344	2,282	1,198	890
2 青森	637	491	945	767	927	645	512	362	454	300
3 岩手	638	490	700	530	708	583	1,288	1,184	130	111
4 宮城	738	582	788	568	1,234	945	596	455	258	220
5 秋田	51	40	0	0	6	6	1	1	3	3
6 山形	55	43	65	49	110	96	74	74	61	61
7 福島	910	698	943	746	949	706	775	555	1,062	810
8 茨城	4,346	2,870	4,988	3,319	4,502	3,360	4,168	3,219	2,636	2,029
9 栃木	1,104	848	865	706	916	685	506	367	266	208
10 群馬	3,403	2,635	3,788	2,996	4,131	3,308	1,855	1,510	1,727	1,399
11 埼玉	14,590	9,425	15,536	9,613	14,957	9,542	11,482	7,335	6,725	4,309
12 千葉	3,194	1,769	4,417	2,290	4,921	2,554	3,810	1,988	2,401	1,135
13 東京	10,889	9,661	12,127	9,338	4,932	3,656	3,745	2,932	8,103	7,650
14 神奈川	5,612	3,719	5,882	4,594	5,431	4,207	4,512	3,323	1,914	1,185
15 山梨	231	224	189	187	242	232	8	8	159	150
16 長野	191	126	253	229	253	205	314	264	110	89
17 新潟	365	260	324	262	330	299	154	144	104	103
18 富山	73	72	100	97	125	121	191	185	53	53
19 石川	0	0	108	66	0	0	141	130	17	12
20 福井	70	67	12	10	250	207	282	213	55	25
21 静岡	1,260	1,105	1,514	1,336	1,346	1,226	1,639	1,415	952	859
22 愛知	3,225	1,650	2,723	1,933	3,649	2,163	2,601	2,036	1,740	1,256
23 三重	369	334	237	221	231	205	178	156	150	141
24 岐阜	252	197	247	198	407	350	215	169	242	197
25 滋賀	271	208	360	347	240	231	189	181	50	50
26 京都	765	429	990	443	887	509	698	373	293	269
27 大阪	1,201	939	1,297	1,101	1,369	1,104	1,304	1,065	466	368
28 兵庫	2,640	2,073	2,212	1,708	2,406	1,953	1,590	1,250	777	629
29 奈良	873	604	1,050	709	966	652	798	545	257	183
30 和歌山	192	153	335	308	433	387	353	306	262	230
31 鳥取	63	57	183	169	20	15	0	0	0	0
32 島根	57	55	95	92	0	0	134	132	0	0
33 岡山	412	234	32	27	509	333	582	549	18	18
34 広島	786	592	1,096	885	1,269	1,028	438	370	93	86
35 山口	158	127	197	162	228	200	256	227	139	115
36 香川	139	125	0	0	0	0	0	0	0	0
37 徳島	12	11	3	1	7	7	13	10	0	0
38 愛媛	0	0	0	0	372	355	114	111	19	19
39 高知	0	0	0	0	221	207	0	0	0	0
40 福岡	368	261	180	131	220	212	134	130	55	55
41 佐賀	140	104	108	78	105	78	224	224	373	265
42 長崎	73	64	116	83	389	302	214	151	16	14
43 熊本	244	156	261	225	296	243	382	311	0	0
44 大分	259	210	354	293	169	146	250	218	166	160
45 宮崎	113	88	81	63	84	56	84	52	0	0
46 鹿児島	0	0	206	188	0	0	0	0	0	0
47 沖縄	85	59	96	66	728	267	66	45	29	23
48 タイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
49 ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0	35	29
OWS検定	337	319	580	503	324	292	577	483	111	104
合計	65,205	46,885	70,934	50,565	65,156	46,150	50,791	37,040	33,679	25,812

※2021年3月31日までにいただいた実施報告分の集計となります。

4. 地域会議報告

地域	担当県	日程	出席者		
北海道	北海道	10月31日(土)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
近畿	滋賀	11月3日(火・祝)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
九州	長崎	11月7日(土)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
北信越	新潟	11月14日(土)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
東海	三重	11月15日(日)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
東北	秋田	11月22日(日)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
中国	鳥取	11月28日(土)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
関東	群馬	11月29日(日)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事
四国	香川	12月12日(土)	青木 会長	坂元副会長兼専務理事	鷺見常務理事

議 題

1. 歓迎の挨拶 開催地 加盟団体長
2. 挨拶及び現況報告 会 長 青木 剛
 - (1) 水泳ニッポン・中期計画2017-2024(進捗報告)
3. 事業報告 副会長兼専務理事 坂元 要
 - (1) 通信大会
 - (2) 強化合宿
 - ① 2020年度下期開催予定
 - ② 2021年度主要競技会開催予定
 - ③ 指導者養成事業関係
 - ④ 生涯スポーツ関係
 1. 泳力検定制度 推進状況
 2. 「水泳の日」 報告
 - (3) 総務関係 常務理事 鷺見 全弘
 - ① 加盟団体の法人化状況報告
 - ② 競技者登録状況
 - ③ 2021年度会議日程
 - ④ スポーツ団体ガバナンスコード(中央競技団体向け)適合性審査の実施に向けた準備状況報告
 - ⑤ 2024年日本水泳連盟創立100周年記念事業について
 - ⑥ その他
 1. サプリメントに関する注意喚起
 2. スポーツ界における暴力行為根絶宣言
 3. 倫理に関するガイドライン等
 - (5) その他 副会長兼専務理事 坂元 要
 - ① 総合補償制度 推進状況
 - ② 2022年世界選手権福岡大会進捗状況
 - ③ Jr.ブロック合宿 ブロック分け再編成(案)について
 - ④ 日水連人事について
 - ⑤ コンプライアンスについて
今年度の事例報告
 - ⑥ 有功章推薦者の資格 及び2020年度有功章表彰式について
4. 各加盟団体の要望及び意見、来年度地域会議開催日程案
5. 質疑応答

2020年度地域会議における要望・意見及び質疑応答事項

北海道ブロック会議(2020.10.31)札幌

1. 令和5年度北海道インターハイ準備について

現在、令和5年度北海道インターハイへ向けた準備を進めているが、北海道の限られた施設・予算・人での運営となる。さらに新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催自治体の予算も逼迫している。開催地として、最大限の準備をしていくが、本道の実情を十分にご理解願いたい。

(回答) 随時相談に応じる。都度連絡願いたい。

2. 公認競技役員の資格更新・取得の条件について

公認競技役員の資格更新・取得の条件について、都府県の実態をお知らせ願いたい。

(回答) 精査の上、後日連絡させていただく。

3. B・C級大会の参加条件について

北海道の定める条件では、道央圏の公式・公認大会に参加するには遠隔地からの参加は、経費と時間がかかるのが実情である。B級、C級は、条件を緩くできないか？日水連の考えは？

(回答) 公式・公認大会の条件を緩和することはない。未公認であれば、B・C級大会の条件を独自に定めただいて構わない。

4. 70歳定年について

日水連の役職は就任時70才であるが、北海道では少子化の中で協会競技団体ともに運営が難しくなっており、ボランティアの役員や競技役員のなり手が少ないのが現状である。70歳定年にこだわらないで良いか？

(回答) 本連盟では理事の就任時の年齢制限(定年)は規定で定めているが、ボランティア役員や競技役員の年齢制限(定年)は求めている。ガバナンスコードで求められる組織の新陳代謝を背景とした「定年制の導入」は、その主旨を鑑み貴連盟内で検討願いたい。ガバナンスコードで求められる事項については、本連盟は、その是非を判断する立場にないことをご理解いただきたい。

5. 今後の講習会・研修会のあり方について

2020年度競泳公認審判員・競技役員資格取得講習会は、コロナ感染拡大防止のため、特例として遠隔(YouTube)により実施された。地方からの集合研修参加は、移動時間など参加制限があるため、今後も遠隔(YouTube)・オンライン研修会を実施していただくと有難い。

(回答) 今後の社会情勢に応じて対応させていただく。

6. 全国の市区町村地域の小規模競技会の実施状況および感染拡大対策について

コロナ感染拡大防止対策のもと、日水連主催の競技大会が開催され、北海道においても公式・公認大会が開催、道内の一部地域でも競技会が開催され始めた。全国の市区町村地域の小規模競技会の実施状況、感染拡大対策など情報はるか。

(回答) 全国各自治体の要請に対応し、万全な状態で運営されていると認識している。

近畿ブロック会議(2020.11.3)滋賀

1. 新型コロナウイルスの感染予防について(その1)

日水連ブロック合宿が中止になるなどの現状があるが、各府県で行う競技大会や合宿の開催について、基本的な考えを伺いたい。

(回答) 観覧席が十分にある 50m プールでは、おおむね 1 日 400 名程度の選手数を目安にさせていただきたい。観客席が十分ではない 25m プールなどでは、男女を入れ替える、対象の年齢区分で入れ替える、日程を別にするなど配慮をお願いしたい。

2. 新型コロナウイルスの感染予防について (その2)

地域・大会の実情(感染者が少ない府県の府県を股がない大会等)に応じたガイドラインの緩和をお願いしたい。

(回答) 本連盟の「感染拡大予防ガイドライン」は一例として参考とするものであり、規則ではない。よって、ガイドラインは適宜改訂することは考えられるが、現状で緩和の予定はない。

3. 地域水泳連盟について

昨今、地域の水泳連盟においては、ブロックの合宿・各種競技会・審判講習会等の諸行事が開催されるなど、ますますその活動の重要性が増してきているように思われる。そんな中、東海水泳連盟が法人化された(近畿水泳連盟はまだそこまでは至っていないが)。これまで日水連は「地域水泳連盟を公認団体として認めない」としていたが、現在もその見解に変わりはないか。

(回答) 地域水泳連盟は公認団体として認めていない。法人化していないが、近畿水泳連盟同様、九州水泳連盟、東北水泳連合も認めていない。

4. 大会支援について

オリンピックの1年延期に伴い、世界選手権福岡大会も2022年に延期された。同年近畿においてワールドマスターズゲームが開催されるが、日程が重なる場合でも、大会の支援(審判員の派遣等)はお願いできるか。

(回答) 原則、OWS 以外は兵庫県水泳連盟の主導による運営を前提としており、本連盟および日本マスターズ水泳協会からの派遣は必要最少人数と考えていた。が、この度の延期日程については、本連盟・日本マスターズ水泳協会ともに、大変困惑している。特に、大阪府で開催予定のOWSについては、

- ・世界選手権……5月14日(土)～20日(金)
- ・関西 WMG……5月27日(金)・28日(土)
- ・世界マスターズ 5月31日(火)～6月9日(木)

と世界選手権の直後かつ世界マスターズの準備期間となり、実施そのものが困難と言える状況だが、現時点で調整に至っていない。

5. 水球のU-17および全国JO春季大会について

水球のU-17および全国JO春季大会について、「開催されるのか」、「開催の場合の最終日程」を教えてください。大会中止の場合、近畿予選会(2021年2月6-7日)のプールをキャンセルしなければならないため、遅くとも2021年1月には回答いただきたい。

(回答) 若い選手たちに大会の機会を創出するため、開催を前提に行政と交渉していく予定である。

6. 審判講習会について

コロナ禍の影響で、各種研修会・講習会の開催が難しい状況にある。新規と更新、どちらかを選択しなければならない場合、どちらを優先すべきか、日水連の方針を伺いたい。

(回答) 競技担当・鈴木浩二に問い合わせ願いたい。

7. ワールドマスターズOWS競技について

大阪水泳協会はOWSの大会を開催したことがないが、2022年のワールドマスターズにて、OWS競技を運営しなければならない。事前にリハーサル大会を開催するなどの検討をして

いるが、具体的にどのように準備すべきかを教示願いたい。また、将来的に同大会をサーキット大会にするには何が必要か、併せて教示願いたい。

(回答) 本連盟 OWS 委員会は、これまでも全国各地で、国体や認定サーキット大会の立ち上げを行ってきた。ゼロからのスタートに関する経験値を有しているため、ワールドマスターズの大会準備およびその後のサーキット大会化については、本連盟・OWS 委員会に相談願いたい。

九州ブロック会議(2020.11.7)長崎

1. 審判(競泳)資格の可否について

審判(競泳)資格について、同じような回答をしているにも関わらず、可否が異なる事例が散見されている。可否の基準を明確にしてもらえないか。

(回答) 担当部署に確認の上、回答させていただく。

2. 選手カードの活用方法について

毎年選手カードを制作しているが、折角制作したにも関わらず、その活用方法が不明瞭である。AD カード化するなり、有効な活用方法を明示いただけないか。

(回答) 100 周年に向けたデータベース再構築事業に関連して、選手カードのデジタル活用についても議論が上がっている。限られた予算の中で、一連のデータベース再構築事業内に当該事案を盛り込めるかどうかも含め、その活用方法を広く検討するよう情報システム委員会に伝達させていただく。

3. コーチ4の資格取得について

コーチ4の資格取得については、拘束時間を含め、相当にハードルが高いのが実情である。コーチ3から経過15年で自動取得できるようにする等、改善を検討願いたい。

(回答) JSPO との関わりもあるため、ご要望を受け止め、検討させていただく。

4. 競技役員証について

コマが小さくて、手書きで実績を記入している。デジタル化の昨今、抜本的に改正できないか。

(回答) 検討させていただく。

5. 2024年の佐賀県の状況について

2024年、佐賀ではインターハイと国体を開催することになる。同一年度の8月・9月の連続開催となり、準備等が非常に厳しい。実情、考慮願えないか。

(回答) 早急に検討させていただく。

北信越ブロック会議(2020.11.14)新潟

1. 2028年長野国体におけるOWS競技の取扱いについて

2028年長野国体のOWS競技会場の選定に苦慮している。海を有しない長野県としては、湖沼を候補地として選定作業を進めているが、適地が限られ、その適地を有する自治体(町村)も財政的、職員削減など、競技会運営を引き受けるには厳しい状況となっている。

47都道府県の全てにおいて、選手にとって理想的な会場地を確保することは困難な状況となっており、冬季国体のスキー競技のように、全国の中でOWS競技の適地会場を確保(20~30箇所)し、今後、OWS競技については、これらの会場地での持ち回り開催とするようなことは考えられないか。

無理をして、環境劣悪な会場地を選定し設備整備に投資を行ったにもかかわらず、結果とし

て、選手に不快な思いを抱かせ、国体開催のレガシーとして何も残らない様な会場地の選定では、国体を開催する意味を持たないと考えるものである。

(回答) OWS 競技は現在国内での普及と選手強化の途上であり、全国各地で開催される国体を良い機会として普及展開している。開催にあたっては、開催地の自然環境情報、現地の理解が不可欠であるが、野尻湖では約 100 年の歴史ある水上大会が開催されており、水面・水底の安全や現地理解等、その下地が十分あるように推察する。まずは、この地域を含む「開催可能性のある各地域」を検討対象とし、関係各署との連携・調整をいただきたく、お願いしたい。OWS 競技は、自然環境を相手にする競技特性から、高水温・低水温、透明度の低さ、流れの速さなど、対環境適応能力も求められる競技力の 1 つである。コンディションの多様性は、むしろ貴重な経験にもなる。長野国体開催を機会に、是非、貴県下での OWS 大会開催を推進いただきたく、よろしくお願いしたい。

2. コロナ感染再拡大について (その 1)

コロナ感染再拡大に伴い、県下の活動制限の再発出が検討されている。活動制限次第では、ナショナル強化合宿を目指している選手が、記録突破を目指している秋葉山選手権に出場できないなどの事態が生じる。本年の特例として、昨年度の記録を引用できるなどの救済策を講じてもらえないか。

(回答) 確認の上、回答する。

3. コロナ感染再拡大について (その 2)

来年 3 月の AS オリンピック最終予選会に向けて、海外チームから事前合宿の打診が来ている。昨今、オリンピック関連の選手・指導者等に向けた入国以降の待機期間の短縮などが報道されている。事前合宿受け入れに際しては、国の方針・施策に基づくため、情報共有願いたい。

(回答) JOC などを通じて入手した情報は、迅速に共有させていただく。

4. JO 春季大会について

実施要項を早めに開示願いたい。

(回答) その旨を担当者に伝え、対応させていただく。

東海ブロック会議(2020. 11. 15)三重

1. 今後、ガバナンスコードによる組織運営の方向性について

ガバナンスコードにより、今後の組織運営はどのようになるのか。

(回答) 10 月 30 日付で JOC に提出した『スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>適合性審査 審査書式』における自己説明、および本年 11~12 月に実施予定の円卓会議によるヒアリングに即した組織運営を行う。その遵守状況は、来年 3 月以降、ホームページ上で公開する。

2. 定時評議員会の開催時期の前倒し (従来より要望) について

定時評議員会の開催時期を前倒しにできないか。

(回答) 理事会から評議員会まで 2 週間空けなければならない、監査報告書の作成に時間を要す等の理由から、定時評議員会の開催時期の前倒しは難しい。

3. 競技者登録の集計表について

競技者登録の数値に関し、各種目(競技: 競泳・飛込・水球・AS・OWS 等)個別の集計表が情報としてほしいが、安易に表示できないか。

(回答) 検討させていただく。

4. 水泳授業の必修化について

今後、小・中学校の部活動が少なくなっていく事に鑑み、水泳を必修要望としては。

(回答) 「学校体育における水泳授業の充実」は、中期計画にも取り組むべき戦略の1つとして位置づけている。学習指導要領への反映が必須となるため、現在、スポーツ庁政策課学校体育室をはじめ、関係諸機関へ継続的に働きかけを行っている。

5. ブロック合宿の際の150万円について

シンガポール遠征が中止となったが、ブロック合宿の際の150万円についての扱いは是非そのままブロックの強化として支給願いたい。

(回答) 支給は難しい。JSC助成金事業であるため、実施できなかった事業への助成はできない。ご理解いただきたい。

6. 競技者登録の集計表について

各競技(特に飛込委員会)からの発信は加盟団体にも送って欲しい。

(回答) 各競技担当者(飛込委員会含め)に伝達させていただく。

7. ホームページのセキュリティについて

日水連ホームページを立ち上げると、「セキュリティで保護されていません」というメッセージが表示される。また、トップページ左側メニュー(速報サービスやWeb-SWMSYSなど)が正しく標記されないことが多々ある。利便性が高く、毎日閲覧しているので改善願いたい。

(回答) ホームページは来年2月にリニューアル公開の予定で、その際にセキュリティ問題も改善の見込みである。もう暫く、お待ちいただきたい。速報サービスやWeb-SWMSYSが正しく標記されない件については、内容を詳しく教えていただきたい。

8. 水球・日本選手権最終予選会について

水球競技の日本選手権最終予選会は、インターハイ代替大会の位置づけか。

(回答) 日本選手権最終予選会は、出場校を決定するために特別に設けた枠組であり、インターハイ代替大会としての位置づけはない。よって、優勝メダルなどもない。

9. 年末のジュニア年代別合宿(水球)について

例年、年末のU15桃太郎カップ時にジュニアの年代別合宿があるが、今年は開催しないのか。場所を変えて開かれるならうれしい限りである。

(回答) 新型コロナ感染状況を考慮しながら、今年度下期(2021年1-3月)の開催を検討している。また、2021年度に向けて、例年日本選手権時に開催していた全国加盟団体水球担当者会議を、1月にオンラインでの開催を企画中である。

10. 競技役員カード等の団体名称表記について

競泳B級審判員、公認競技役員などのカードに記載の加盟団体名に、法人名がされていない。岐阜県水泳連盟ではなく、一般社団法人岐阜県水泳連盟としていただきたい。

(回答) カード化した当初は法人化した団体が少なく、かつ法人化移行期であったため、都道府県のみで統一した経緯がある。今後、競技委員会で、検討させていただく。

11. 国際水泳リーグ(ISL)で発生した記録の公認について

記録の公認は、発生大会に出場した際の登録団体(所属)表記が原則である。今般ISLで発生した公認記録の所属表記はどのような取り扱いになるのか。

(回答) 今回の遠征が終了次第、一連の総括が行われる。その際に本件についても協議の予定のため、追って回答させていただく。

1 2. JO 春季通信大会について

25m 公認プールが県下になく現況下、JO 春季通信大会の実施が厳しい状態である。大会要項を早めに開示願いたい。

(回答) 早急に対応させていただく。

東北ブロック会議(2020. 11. 22)秋田

1. JO 春季通信大会について (その1)

3 月はプールを使えないことから、通信大会をブロック単位または近県単位で行いたい。要項の開示、予算措置等、ご考慮願いたい。

(回答) 担当に確認して回答させていただく。

2. コロナ感染再拡大について (その2)

盛岡のプールが3月末まで改修で使用できない。4月開催ではだめか。

(回答) 担当に確認の上、回答させていただく。

3. 東京オリンピックのチケットについて

延期となったオリンピックのチケットの取り扱いはどのようになるのか。

(回答) IOC と組織委員会が決めることとなるため、現状、答えることはできない。

中国ブロック会議(2020. 11. 28)鳥取

1. 中学校の団体登録と選手登録について

2018年開催の岡山全中にエントリーした中学生は、全員正規登録者であった。ところが2019年開催の京都全中ではエントリー登録者のエントリーが認められていた。

国体や全国マスターズ出場者が、各登録団体から正規登録し、便宜上各県チームに所属するためにエントリー登録の処置をとることは理解できるが、中体連の場合の処置は、全国の情報システム委員各位に聞いてもその根拠を知っている方はいない。

公式・公認競技会にエントリー登録者がエントリーすることは、アルファベット団体(無償団体)の制度を作った趣旨から考えると理解できない。中学校と中学生の登録制度について再確認させていただきたい。

(回答) 団体登録には、「有償団体登録」と「無償団体(アルファベット団体)」登録がある。選手登録には、記録が公認される「正規登録」と便宜上存在する「エントリー登録」がある。中体連主催大会においては、団体登録は「有償団体」・「無償団体(アルファベット団体)」のどちらであっても認められるが、選手登録は「正規登録」でなければならない、との通説がある。

一方で、「正規登録」だけでなく「エントリー登録」でも認められる、との認識の加盟団体も存在する。更には本連盟情報システム委員会においても、それぞれ異なる認識の委員が存在する。

従って、2018年と2019年の取り扱いが異なる背景は、2019年に何かが変わったことはなく、もともと異なる認識(ダブルスタンダード)が存在してきたことが背景となる。

この状況を鑑み、現在、本連盟情報システム委員会に、「これまでの考え方を理解した上で、これからの時代に最適な中学校の登録ルール作り」を指示している。来年1月に開催予定の全国情報システム委員長会議において何らかの方針を示すことができるよう、現在、指示している。もう少々時間をいただいた上で回答させていただく。

2. 来年度のAS大会への参加について (その1)

来年度のAS大会の参加方法について、今年度同様、各加盟団体推薦で参加できるか。

(回答) 担当者に確認の上、回答させていただく。

3. 来年度の AS 大会への参加について (その 2)

各県による日程調整会議における予選会日程の決定後に、日水連から発表された本大会のエントリー締切日が切迫している状況がある。予選会の日程を考慮した上で、エントリー締切日を設定することを考慮してもらえないか。

(回答) 担当者に確認の上、回答させていただく。

関東ブロック会議(2020. 11. 29)群馬

1. コロナ対応について (その 1)

コロナ感染拡大防止対策より前に大会開催発表があり、大会開催が先行され現場が非常に混乱した。また、進めるに当たり、手続きや方法について矛盾が発生していた。事前に加盟団体の意見を聞くなど方法はなかったのか。中体連・保護者からは苦情が相次いだ。

(回答) 前例のない社会情勢下、前例のない競技会を実施していただくこととなった。加盟団体の開催にあたっては随時 Q&A を通じて柔軟に対応したつもりだが、諸対応が十分でなく無理難題が多々発生したと思われる。日本の水泳界を何とか動かしたいとの思いから、各種の決断に至ったことをご理解願いたい。

2. コロナ対応について (その 2)

持続給付金の内容などは、日水連がもう少し主導する必要があったのではないか。

(回答) 持続給付金などについては、本連盟自体が給付を受ける側であり、主体的に動く立場になかったことをご理解いただきたい。その上で、本連盟としては、JOC とのテレビ会議やヒアリングの際に、その必要性を他競技団体とともに提言させていただいた。JOC、JSPO が独自の制度を立ち上げ、それぞれに競技団体に情報伝達したが、その内容が後追いで追加変更されるなど、当時、制度が落ち着くまで時間を要する状況であったため、「加盟団体から質問や相談があれば対応する」方式をとり、あくまでも個別対応とさせていただいた。対応が十分でなかったとのご指摘であれば、極めて異例な状況下での判断としてご容赦願いたい。

3. ブロック合宿のキャンセル料の負担について

コロナ禍の影響でブロック合宿が中止となり、プールのキャンセル料(28万円)が発生した。来春の JO 春季についても、コロナ感染の拡大状況によっては同様の事態が起り得る。キャンセル料は日水連負担としてもらえないか。

(回答) 検討の上、回答させていただく。

4. 基礎水泳指導員 更新研修会について

コロナ禍の折、座学をオンライン形式にできないかを打診したが、「まかりならん」との回答であった。今後、感染がいつ収まるか不透明なことから、オンライン形式の導入に向けて前向きな検討をお願いしたい。

(回答) 検討させていただく。

5. ブロック合宿の区分け変更について

ブロック合宿の区分け変更の根拠が、選手・コーチの登録者数によるものであるならば、助成金 150 万円が一律なのは矛盾があるのではないか。

(回答) ブロック合宿の目的は「強化の全国展開」のため、助成金の配分と登録者数を関連させることは考えていない。区分けの変更は、時代時代の状況変化によるものをご理解いただきたい。

四国ブロック会議(2020.12.12)香川

1. 夏季JO・中学・高校通信大会のHP掲載の暫定ランキングについて

夏季JO・中学・高校通信大会のHP掲載の暫定ランキングは決定でよいか。

(回答) 確定版はSEIKO リザルトページに公開する。なお中学生区分および高校生区分には、賞状は授与されるがメダルは授与されない(JO年齢区分には、賞状・メダルが授与される)。

2. 春季JO通信大会のブロック単位開催について

春季JO通信大会を各県ではなく四国ブロックで開催してもよいか。

(回答) 構わない。必要に応じて、ブロック大会として開催願いたい。なお、4県に満たない場合は、3県で開催しても2県で開催しても構わない。大会名称については、個別に相談を承る。

3. 加盟団体HP作成に対する連携、協力などについて

加盟団体のホームページ作成にあたり、日水連からの連携、協力などはあるのか。

(回答) 現在、本連盟HPをリニューアル中だが、制作担当者を紹介することは可能である。それにより「お知らせ」などの情報連携が可能となると推察する。

■担当者からの後日回答分

北海道ブロック

2. 公認競技役員の資格更新・取得の条件について

公認競技役員の資格更新・取得の条件について、都府県の実態をお知らせ願いたい。

(回答) 精査の上、本年度の処理状況を都道府県ごとにとりまとめ、後日連絡させていただく。

九州ブロック

1. 審判(競泳)資格の合否について

審判(競泳)資格について、同じような回答をしているにも関わらず、合否が異なる事例が散見されている。合否の基準を明確にしてもらえないか。

(回答) 合格基準点を定め、複数名で正確に採点作業を行っている。僅かな差であっても、基準点に達しなければ不合格となる。競技役員(競泳)の手引き部分を参照願いたい。

2. 選手カードの活用方法について

毎年選手カードを制作しているが、折角制作したにも関わらず、その活用方法が不明瞭である。ADカード化するなり、有効な活用方法を明示いただけないか。

(回答) IDカードについては、全加盟団体の使用状況を把握した上で、「再来年廃止」の方向で準備させていただく。

3. コーチ4の資格取得について

コーチ4の資格取得については、拘束時間を含め、相当にハードルが高いのが実情である。コーチ3から経過15年で自動取得できるようにする等、改善を検討願いたい。

(回答) コーチ4は指導者資格制度上で最上位の資格のため、受講時間がすべて「免除」での資格取得は、JSPOの養成方針、資格制度の性格上、他競技との兼ね合いもあり難しい。その他の改善の余地については、別途、検討させていただく。

4. 競技役員証について

コマが小さくて、手書きで実績を記入している。デジタル化の昨今、抜本的に改正できない

か。

(回答) 大半の加盟団体では、手書きではなくゴム印で対応されている。ご検討願いたい。

5. 2024年の佐賀県の状況について

2024年、佐賀ではインターハイと国体を開催することになる。同一年度の8月・9月の連続開催となり、準備等が非常に厳しい。実情、考慮願えないか。

(回答) インターハイの開催地について、本連盟には2023年度の北海道までしか連絡が届いていない。高体連に連絡の上、検討事項とさせていただく。

北信越ブロック

2. コロナ感染再拡大について(その1)

コロナ感染再拡大に伴い、県下の活動制限の再発出が検討されている。活動制限次第では、ナショナル強化合宿を目指している選手が、記録突破を目指している秋葉山選手権に出場できないなどの事態が生じる。本年の特例として、昨年度の記録を引用できるなどの救済策を講じてもらえないか。

(回答) 競泳委員会のナショナル標準記録に関しては、本年度は試合に出場できていない選手たちの状況を鑑み、すでに例年の運用ではなく、特別運用としている。(47都道府県、東京SC招待、秋葉山選手権大会、日本選手権、ジャパンオープン、コナミオープン)。地域格差がある上で、チャンスを広げるという意味で、秋葉山選手権大会、東京SC招待、コナミオープンをすでに広げているため、そのような対応が難しいことをご理解願いたい。なお、実際には、今年度はナショナル合宿を中止している。

4. JO春季大会について

実施要項を早めに開示願いたい。

(回答) 都道府県独自・近県との合同開催・ブロック開催など、いかなる方法であっても柔軟に対応することを前提に、アンケート調査を実施している。アンケートが出そろい次第、開示させていただく。

東海ブロック

3. 競技者登録の集計表について

競技者登録の数値に関し、各種目(競技:競泳・飛込・水球・AS・OWS等)個別の集計表が情報としてほしいが、安易に表示できないか。

(回答) Web-SWMSYSの各種目の個別集計機能については、予算上可能か検討させていただく。

1 1. 国際水泳リーグ(ISL)で発生した記録の公認について

記録の公認は、発生大会に出場した際の登録団体(所属)表記が原則である。今般ISLで発生した公認記録の所属表記はどのような取り扱いになるのか。

(回答) 記録の公認は発生大会に出場した際の登録団体(所属)表記が原則であるが、一部、例外的な取扱いがある。国体の場合は「都道府県名」表記を、国内外の一部の大会では「日本学生選抜」のような「〇〇選抜」表記を認めている。これは、申請を受けてアマチュア証明を発行するなど、本連盟が「例外的な取扱い」として認めた場合に限った措置である。今般のISLにおいても、然るべき手続き(アマチュア証明の申請、本連盟による受理)を経たものであるため、「例外的な取扱い」として認め、記録が発生した大会出場時の団体(所属)表記とする。

1 2. JO春季通信大会について

25m 公認プールが県下になく現況下、JO 春季通信大会の実施が厳しい状態である。大会要項を早めに開示願いたい。

(回答) 都道府県独自・近県との合同開催・ブロック開催など、いかなる方法であっても柔軟に対応することを前提に、アンケート調査を実施している。予算配分は、1 県あたり 25 万円の計画である。

東北ブロック

1. JO 春季通信大会について (その 1)

3 月はプールを使えないことから、通信大会をブロック単位または近県単位で行いたい。要項の開示、予算措置等、ご考慮願いたい。

(回答) 都道府県独自・近県との合同開催・ブロック開催など、いかなる方法であっても柔軟に対応することを前提に、アンケート調査を実施している。予算配分は、1 県あたり 25 万円の計画である。

2. コロナ感染再拡大について (その 2)

盛岡のプールが 3 月末まで改修で使用できない。4 月開催ではだめか。

(回答) 3 月に限定させていただく。都道府県独自・近県との合同開催・ブロック開催など、いかなる方法であっても柔軟に対応することを前提に、アンケート調査を実施している。

中国ブロック

2. 来年度の AS 大会への参加について (その 1)

来年度の AS 大会の参加方法について、今年度同様、各加盟団体推薦で参加できるか。

(回答) 新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、その都度、検討する。

3. 来年度の AS 大会への参加について (その 2)

各県による日程調整会議における予選会日程の決定後に、日水連から発表された本大会のエントリー締切日が切迫している状況がある。予選会の日程を考慮した上で、エントリー締切日を設定することを考慮してもらえないか。

(回答) 前向きに検討する。

関東ブロック

3. ブロック合宿のキャンセル料の負担について

コロナ禍の影響でブロック合宿が中止となり、プールのキャンセル料 (28 万円) が発生した。来春の JO 春季についても、コロナ感染の拡大状況によっては同様の事態が起こり得る。キャンセル料は日水連負担としてもらえないか。

(回答) 競泳・ジュニア育成合宿費として、1 県あたり 30 万円を助成する。助成金を利用いただき、各県で等分するなど、ブロック内でご対応願いたい。

4. 基礎水泳指導員 更新研修会について

コロナ禍の折、座学をオンライン形式にできないかを打診したが、「まかりならん」との回答であった。今後、感染がいつ収まるか不透明なことから、オンライン形式の導入に向けて前向きな検討をお願いしたい。

(回答) 感染症の動向を踏まえ、次年度の養成・研修事業について前向きに検討させていただく。

5. 表彰関係

(1) 2020 年度有功章

1	(一財)北海道水泳連盟	安保 美幸
2	(一社)岩手県水泳連盟	千田 博
3	(一財)宮城県水泳連盟	今西 健
4	(一社)秋田県水泳連盟	平岡 清明
5	(一社)山形県水泳連盟	小松 繁
6	(一社)福島県水泳連盟	森 米吉
7	茨城県水泳連盟	石川 廣
8	栃木県水泳連盟	青木 幹成
9	群馬県水泳連盟	山室 護
10	(一社)埼玉県水泳連盟	中川 朝夫
11	(一社)埼玉県水泳連盟	細貝 孝樹
12	(一社)千葉県水泳連盟	伊藤 伸一
13	(公財)東京都水泳協会	中村 孝一
14	(公財)東京都水泳協会	佐藤 和人
15	(一社)神奈川県水泳連盟	栃木 久男
16	(一社)神奈川県水泳連盟	木村 文代
17	山梨県水泳連盟	高井 道治
18	(一社)長野県水泳連盟	畔上 恵美子
19	(一社)富山県水泳連盟	大屋 繁雄
20	(一社)石川県水泳協会	宮越 雅一
21	(一社)静岡県水泳連盟	杉山 勉
22	(一社)愛知水泳連盟	鈴木 省三
23	(一社)愛知水泳連盟	湯浅 千鶴子
24	(一社)三重県水泳連盟	川北 裕
25	(一社)岐阜県水泳連盟	齋藤 雅昭
26	(一社)京都水泳協会	虫明 憲史
27	(一財)大阪水泳協会	齋藤 好史

28	(一財)大阪水泳協会	加藤 浩二
29	(一社)兵庫県水泳連盟	前川 和男
30	(一社)兵庫県水泳連盟	後藤田 優
31	(一社)和歌山県水泳連盟	越山 雅巳
32	(一財)鳥取県水泳連盟	船本 逸
33	NPO法人 岡山県水泳連盟	杉本 和弘
34	(一財)広島県水泳連盟	佐藤 隆政
35	(一財)山口県水泳連盟	大坪 秀樹
36	香川県水泳協会	神前 知弘
37	(一社)徳島県水泳連盟	岸田 英樹
38	(一社)高知県水泳連盟	赤崎 由香
39	(一社)福岡県水泳連盟	坂井 良明
40	(一社)長崎県水泳連盟	南 宏美
41	(一社)熊本県水泳協会	大賀 睦朗
42	(一社)大分県水泳連盟	竹中 昭子
43	(一社)鹿児島県水泳連盟	橋口 知
44	(一社)日本スイミングクラブ協会	小野 正之
45	飛込委員会	名東 久也
46	水球委員会	堀 信一郎
47	AS委員会	田中 洋子
48	OWS委員会	藤澤 崇
49	科学委員会	野口 智博
50	競技委員会	大関 知美
51	競技委員会	笠原 佳樹
52	学生委員会	入澤 雅典
53	生涯スポーツ委員会	内田 孝太郎

(2) 選手およびコーチの表彰

①最優秀・優秀選手賞、優秀コーチ賞 : 該当なし

②東京運動記者クラブ水泳分科会新人賞

佐藤 翔馬 東京 SC・慶應義塾大学 (2年)

③スポーツ関係団体表彰

(ア) 服部真二スポーツ賞 (服部真二 文化・スポーツ財団)

Young Leader 池江璃花子 スポーツクラブルネサンス・日本大学 (2年)

④日本記録賞

長水路日本記録賞

(男子)

松元 克央

短水路日本記録賞

(男子)

松元 克央 竹田 渉湖 川本 武史

(女子)

小堀 倭加 青木 玲緒樹 大橋 悠依

(3) 優秀団体および個人の表彰

①全国 JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会 優秀クラブ・団体 (夏季大会)

(ア) 最優秀クラブ (夏季大会)

岩手: 水沢スポーツクラブ 新潟: ダッシュスイミングスクール三条

愛知: 平針スイミングスクール 兵庫: イトマンスイミングスクール西神戸校

(イ) 優秀クラブ (夏季大会)

岩手: JSS 盛岡スイミングスクール 兵庫: スポーツクラブルネサンス神戸

秋田: セントラルフィットネスクラブ秋田広面 岡山: コナミスポーツクラブ岡山

埼玉: WING 愛媛: アズサスポーツ松山

千葉: メガロス柏 熊本: マリーンスイミングクラブかもと

愛知: 特定非営利活動法人ウィル大ロススポーツクラブ

②全国 JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会 優秀クラブ・団体 (春季大会)

(ア) 最優秀クラブ (春季大会)

長野: 佐久長聖高等学校 兵庫: イトマンスイミングスクール西神戸校

大阪: JSS 東花園スイミングスクール 奈良: OEI. SWIMMING. SCHOOL

(イ) 優秀クラブ (春季大会)

秋田: セントラルフィットネスクラブ秋田広面 大阪: JSS はびきのスイミングスクール

群馬: スウィン伊勢崎スイミングスクール 奈良: JSS 富雄スイミングスクール

埼玉: WING 鳥取: サンフィッシュスイミングスクール鳥取

千葉: スポーツクラブ&スパ ルネサンス野田 岡山: OSK スポーツクラブ岡山

東京: スポーツクラブ&スパ ルネサンス亀戸 岡山: オーバルスポーツコム総社

東京: 東京ドーム巣鴨 岡山: アクロポトスイミングスクール

静岡: 静岡県立伊東高等学校 大分: 日田スポーツクラブ S&T

愛知: アシスト蟹江 鹿児島: Kit

③記念事業並びに栄章規程による優秀団体表彰（第21条1項）

スポーツアカデミー五所川原	JSS スイミングスクール富山
本荘スイミングスクール	深谷スポーツクラブ浜松
スポーツアカデミー水戸	特定非営利活動法人ウィル大ロススポーツクラブ
群馬ジュニア水球	三重ダイビングクラブ
さいたま市水泳連盟	特定非営利活動法人 芦屋水練学校
藤村水泳教室	岡山水球クラブ
富士通株式会社	下松市水泳連盟
長野市立東北中学校	ネオUD サークル
ブルボンウォーターポロクラブ柏崎	羽月水泳スポーツ少年団

④記念事業並びに栄章規程による優秀団体表彰（第21条2項）

一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団	早稲田スイミングスクール三郷
イトマンスイミングスクール札幌麻生校	柏洋スイマーズ江戸川台スクール
公益財団法人盛岡市スポーツ協会	柏洋スイマーズ柏スクール
古河あかやまスイミングスクール	柏洋スイマーズ南スクール
スポーツアカデミー水戸	公益財団法人東京都水泳協会
株式会社NSP 群馬	NPO 法人コミュニティネット SSC 大泉
スウィンあざみスイミングスクール	イトマンスイミングスクール新百合ヶ丘校
埼玉スウィンスイミングスクール加須	イトマンスイミングスクール多摩校
埼玉スウィンスイミングスクール熊谷	レオスイミングスクール
埼玉スウィンスイミングスクール鷲宮	東部スイミングスクール
スイミングクラブ ルネサンス吉川	一般社団法人名古屋市水泳連盟
スウィン鴻巣スイミングスクール	豊川高等学校
スウィン深谷スイミングスクール	株式会社城陽スイミングスクール
スウィン大宮スイミングスクール本校	イトマンスイミングスクール玉出校
スウィン大宮スイミングスクール西校	イトマンスイミングスクール堺校
スウィン大宮スイミングスクール南校	イトマンスイミングスクール神戸御影校
スウィン大教スイミングスクール・MAT 記念プール	イトマンスイミングスクール西神戸校
スウィン大教スイミングスクール大宮東校	イトマンスイミングスクール王寺校
東松山スイミングスクール	

《印刷・出版物》

月刊水泳 525～536 号

各 7,000

《諸会議・行事》

1. 専門委員会・特別委員会

評議員会(定時 1 回、臨時 1 回)	2 回	競技力向上コーチ委員会	10 回
理事会	3 回	水泳教師委員会	7 回
常務理事会 (定時 11 回、臨時 7 回)	18 回	広報委員会	12 回
委員長会議	8 回	施設用具委員会	7 回
競泳委員会	10 回	情報システム委員会	10 回
飛込委員会	11 回	総務委員会	2 回
水球委員会	13 回	アスリート委員会	3 回
AS 委員会	11 回	日本泳法委員会	11 回
OWS 委員会	12 回	生涯スポーツ委員会	10 回
科学委員会	5 回	スポーツ環境委員会	3 回
医事委員会	6 回	指導者養成資格審査会	2 回
競技委員会	11 回	競技者資格審査会	1 回
地域指導者委員会	11 回	特別強化委員会	7 回

2. その他 (会議)

日本選手権競泳実行委員会	3 回	記録管理系会議	53 回
日本選手権飛込実行委員会	1 回	ホームページリニューアル会議	18 回
飛込ワールドカップ実行委員会	2 回	泳力検定システム会議	10 回
日本選手権水球実行委員会	2 回	予算ヒアリング	20 回
日本選手権 AS 実行委員会	6 回	オフィシャルサプライヤー会議	2 回
AS OQT 実行委員会	5 回	MS OQT 実行委員会	1 回
日本選手権 OWS 実行委員会	3 回		
JO 実行委員会	11 回		

3. 学生

全国代表者会議	5 回
---------	-----

4. その他

全国情報システム委員長会議

《慶弔関係》

(弔)

				(敬称略)	
				逝去月日(享年)	
おおさき 大崎	まり子 ^こ	(公財)日本水泳連盟	アーティスティックスイミング委員	2020年3月24日	(67)歳
いたくら 板倉	あきひろ 明弘	(一財)島根県水泳連盟	副会長	2020年3月24日	(66)歳
かとう 加藤	かずはる 和春	(一社)京都水泳協会	名誉会長	2020年4月7日	(76)歳
やまもと 山本	ひろし 浩	(公財)日本水泳連盟	顧問	2020年4月14日	(76)歳
もりやま 森山	じゆんじ 純爾	(一財)広島県水泳連盟	参与	2020年4月18日	(100)歳
の 野	おさむ 修	(一社)愛媛県水泳連盟	元副会長	2020年4月21日	(70)歳
もり 森	けいこ 恵子	(一社)静岡県水泳連盟	前副会長	2020年4月23日	(68)歳
ひらもと 平本	たけお 武男	(公財)日本水泳連盟	前生涯スポーツ委員長	2020年4月28日	(69)歳
いちのへ 一戸	かねいち 兼一	青森県水泳連盟	副会長	2020年6月12日	(65)歳
きのした 木下	てるかず 輝和	(一財)福井県水泳連盟	元副理事長	2020年6月12日	(68)歳
すいづ 水津	たくお 卓夫	(一財)島根県水泳連盟	顧問	2020年7月16日	(94)歳
まわぞの 諏訪園	こういち 浩一	(一財)宮崎県水泳連盟	前副理事長	2020年8月4日	(67)歳
かわかみ 川上	けんじ 賢爾	(一社)千葉県水泳連盟	顧問	2020年9月1日	(94)歳
にしわき 西脇	しげる 茂	(一社)京都水泳協会	副会長	2020年10月6日	(92)歳
おくた 奥田	せいいちろう 精一郎	(公財)日本水泳連盟 (一財)大阪水泳協会	顧問 名誉顧問	2020年11月13日	(100)歳
かわい 川井	しげあき 重明	(一社)長野県水泳連盟	顧問	2021年1月12日	(86)歳
しんぼ 神保	えり子 ^こ	(一社)神奈川県水泳連盟	理事	2021年1月25日	(71)歳
すわべ 諏訪部	あきら 晃	群馬県水泳連盟	参与	2021年2月12日	(64)歳